



(題字 小黒千足 学長)

第332号

(平成4年4月号)



▲ 平成4年度富山大学入学式，円内は1,714名の新入生を代表して宣誓する  
経済学部土井里恵さん（平成4年4月10日(金) 於：富山市公会堂）

## 目 次

学 内 諸 報	関 係 法 令	32
◆ 平成3年度富山大学学位記授与式の举行	諸 会 議	33
◆ 富山大学大学教育改善検討委員会が評議会 に答申書を提出	学 内 規 則	
◆ 平成4年度富山大学入学者選抜試験の合格 者発表及び後期・B日程試験の実施	◆ 富山大学大学院理学研究科規則の一部 改正	34
◆ 平成3年度定年等退職者を囲む懇談会の 実施	◆ 富山大学大学院工学研究科規則の一部 改正	34
◆ 富山大学地域共同研究センター交流振興会 の設立	◆ 富山大学組換えDNA安全管理規則の 一部改正	35
◆ 大学院理学研究科博士課程設置構想につい て懇談	◆ 富山大学文書決裁規則の一部改正	38
人 事 異 動	レ ク リ エ ー シ ョ ン	39
学 事	海 外 渡 航 者	40
◆ 平成3年度富山大学大学院研究科修了者 一覧	職 員 消 息	41
◆ 平成4年3月卒業(修了)者数	お 知 ら せ	
◆ 平成4年度富山大学国際交流事業基金によ る各種事業の採択	◆ 完全週休二日制の実施について	45
◆ 平成4年度国際交流事業基金による第3種 事業の募集	◆ 育児休業等について	45
寄 稿	主 要 行 事	48
◆ 「環境保全とCanadian Life」		
— 理学部助手 笠原 一世 —		



3月25日富山市公会堂において

## 平成3年度富山大学学位記授与式を盛大に挙行

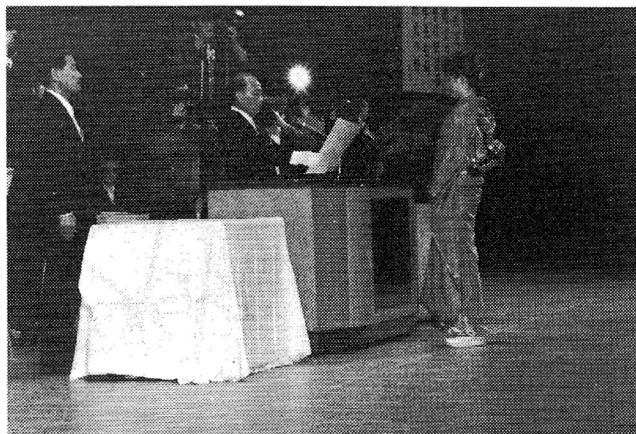
— 合計1,413名が社会に巣立つ —



呼称を「学位記授与式」と改めた平成3年度富山大学学位記授与式が、平成4年3月25日(木)午前10時30分から富山市公会堂で挙行されました。

授与式では、先ず小黒学長から、学部卒業生1,303名、大学院研究科修了生110名、合計1,413名に学位記が授与されました。引き続き、学長告辞で小黒学長は、「在学中に受けた大学教育の根本理念を十分理解していただきたい。受けた教育の価値を自らも評価するとともに、大学教育を受けた人間であることに誇りと自覚を持つことによって、急変する社会・経済情勢に対処してほしい。」とはなむけの言葉を述べました。

また、式に先立ち、本学フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラ演奏で、卒業生・修了生の門出を祝福しました。さらに、式終了後は、会場の富山市公会堂ホール前で、今や遅しと待ち構えたサークル学生など多くの在学生在が、所狭しと思ひ思ひの趣向を凝らし、卒業生の洋々たる前途をお祝いしていました。



## 学位記授与式学長告辞（全文）



学 長 小 黒 千 足

ここにおられる1,413名の諸君は、本学所定の課程を終え、本日めでたく学士又は修士の学位を授与されました。教職員一同、心からお祝い申し上げます。また、この日を心待ちにしておられた御父兄の方々のお喜びもひとしおのこととお察し申し上げます。

さて、顧みますと諸君が入学されて以来、今日までに世界の情勢は著しい変貌を遂げました。ベルリンの壁の崩壊とそれに続く東ヨーロッパ各国の体制の改革、ソビエト連邦共和国の解体などはその最たるもので、50年、100年に一度しかあり得ないような事態がこの数年間に一挙に起こりました。また、これらと連動し、あるいは独立に生じた国際的变化もまた、著しいものでありました。すなわち、アフリカ、東ヨーロッパ、その他における多くの民俗、宗教に係わる局地紛争とその終末、湾岸戦争と中東・イスラエル問題など枚挙に暇がありません。東ヨーロッパ以外でも、幾つかの国の体制が変わりました。

これらの変化の舞台は、国外ではありましたが、いずれも直接、間接に諸君が足を踏み入れる日本の社会・経済に重大な影響を及ぼしていることは、申すまでもありません。

さらに、日本固有の問題もありました。金融、地価などを中心とした過去数年間の経済活動の急上昇は、予想を超えるものがありました。しかしながら、その失速と、いわゆるバブル経済の破綻は記憶に新しいところであります。

ある調査によりますと、例年、文化系の学生の就職希望の上位に名を連ねていた銀行・証券会社のランクが、昨年は大幅に下がっております。これは社会情勢

や経済の動向が、学生に直接影響を与えている、判りやすい例と思われます。



▲ 式に先立ちオーケストラ演奏する本学フィルハーモニー管弦楽団

繰り返しになりますが、以上はすべて諸君が大学を目指す、入学したときと、現在の社会が大きく異なることの例として挙げたものであります。

では、大学を離れる諸君は、それにどのように対応すればよろしいのでしょうか。大学を去るこのときに、大学あるいは大学院で学んだ意義を改めて問い直してみる必要があります。

少し前になりますが、ある企業の人事担当の役員が「大学では基礎知識を与えてください。教育は会社でいたします。」と述べたことがあります。この発言は、いろいろと補わなければ、真意が伝わらないところがあります。しかしながら、最も問題となるところは「教育は会社で行う」という点であります。その部分は、「すぐに役に立つトレーニングは、我が社で行います」とするべきです。私は、真の教育は大学で行うもので、企業ではできないと思っております。

トレーニングを受けるということは、ある状況、又はある条件下で、最も能力を発揮するように指導されるものです。しかしながら、教育はそうではありません。教育とは、どのような状況においても、それを正しく認識して判断し、最終的に誤りのない対応ができる人を育てることです。

もちろん、技術や知識のあるものは、大学で学ぶことはいまでもありません。しかしながら、大学における教育で最も重要なことは、先に述べたところにあることを改めて心に止めていただくことを望みます。

言い変えるならば、諸君は、trained personではな

く、educated personで、両者の間には無限に大きな違いが存在します。このような大学教育の根本理念が理解されていれば、急変する社会・経済情勢に、右顧左弁することなく、おのずと対処することができましょう。本日、我が富山大学から学士、修士を受けて旅立たれる諸君、胸を張って、自分は名実とともに、educated personであるといえる将来を送られることを、心から願っております。

最近の、社会・経済情勢の移り変わりは、日を追って早くなっており、近い将来更に大きな変化が起こらないとは、誰も保証できません。このようなときに当たり、改めて大学教育を受けた者としての自覚と誇りを喚起して、諸君へのはなむけといたします。



▲ 式終了と同時に待ち構えたサークル学生ら在校生が趣向を凝らして門出を祝福する



# ▶▶▶ 大学教育改善について抜本的答申を提出 ◀◀◀

— 3月26日、本学大学教育改善検討委員会が評議会に答申 —

本学における大学教育の抜本的改善について鋭意検討を進めてきた富山大学大学教育改善検討委員会が、去る3月26日(木)「富山大学における教育の改革について(答申)」として取りまとめ、評議会に提出しました。(答申の全文は、既に同日付け本紙の号外として配付済みです。)

答申に至るまでの同検討委員会の審議は、昨年6月の第1回委員会開催以来延べ13回を数えるに至りました。また、昨年10月15日の中間報告提出後は、個々の問題を詳細に検討するため、教育課程部会及び組織・制度部会を置き、ほぼ毎週会議を重ねながら、必要に応じて全体委員会で調整するという真に精力的な検討が続けられ、このたびの答申となったものです。

答申の骨子は、「従来的一般教育課程と専門教育課程の区分及び二元的な履修形態を廃止し、一般教育と専門教育との一貫性と連続性を達成し、大学教育の活

性化・効率化・高度化を図るような4年一貫教育体制に改める。」ことを基本としています。このため、一般教養の教育のみを担当してきた教養部を廃止し、現教養部教官を専門領域に従って、それぞれ学部等に所属させる必要があるとしています。また、この上記骨子に沿い、現行の一般教育に関する科目を全面的に見直し、具体的に新教育課程・カリキュラムを提言するとともに、そのための実施組織や新構想を盛り込んだ抜本的改革を答申しています。

この答申書提出により、急拠同日臨時評議会が開催され、その取り扱いが慎重に審議されました。その結果、取り急ぎ各教授会で答申内容を検討願い、全学的な合意の上で本学の教育改善の基本方針を決定し、可能な限り平成5年度から具現化するための概算要求をしていく方向で鋭意取り進めていくことが確認されました。



▲ 瀧澤大学教育改善検討委員会委員長から答申書を受け取る小黒学長(平成4年3月26日)

## 平成4年度入学者選抜試験合格者の発表

— 前期日程・A日程1,048人、後期日程・B日程704人 —

去る3月7日(出)に前期日程・A日程1,048人の、3月20日(金)には後期日程・B日程704人の合格者が、いずれも午後1時に本学学生部前特設掲示場で発表されました。

掲示場周辺には、午前中から受験者や父兄が今や遅しと発表を待つ姿が見られ、発表直後には応援団吹奏楽部の演奏と応援団リーダー部などによる合格者の胴上げが行われるにぎやかな光景に報道関係者のカメラが向けられていました。なお、合格者数は、別表のとおりです。

また、入学手続きは、前期日程が3月12日(休)・13日(金)に、後期日程、A・B日程は3月26日(休)・27日(金)に本学黒田講堂で実施されました。



▲ 学生部前特設掲示場での前期日程・A日程の合格者発表（平成4年3月7日(出)）



▲ サークル学生から胴上げで祝福される合格者

— 3月14日(土) —

## 平成4年度入学者選抜試験の後期日程を実施

去る2月25日(火)に実施された前期日程・A日程の学力検査等の後を受け、後期日程の入学者選抜試験が、平成4年3月14日(土)に実施されました。

教育学部小学校、養護学校及び幼稚園の各教員養成課程は実技検査を、理学部化学科は小論文の検査を実施しました。

試験当日は、例年になく好天に恵まれ、交通渋滞や事故もなく、朝早くから検査場に向かって大学キャン

パス内を歩く受験生達の姿が見られました。

各検査場での受験状況は、教育学部が志願者387人に対し198人が受験し、理学部では志願者54人に対し32人が受験しました。

なお、後期日程では、既に前期日程で合格し入学手続きをした者の多くが受験しないため、受験者数が少なくなったと考えられます。

## 平成4年度富山大学前期・A日程入学者選抜試験合格者数

(平成4. 3. 7)

学部	区分	学 科 (課程)	募集人員	志願者数	受験者数	欠席者数	合格者数	
人文学部	前期	人文学科	61 <sup>^</sup>	278 <sup>^</sup>	258 <sup>^</sup>	20 <sup>^</sup>	66 <sup>^</sup>	
		語学文学科	72	364	344	20	79	
		計	133	642	602	40	145	
教育学部	前期	小学校教員養成課程	70	185	181	4	76	
		養護学校教員養成課程	14	85	80	5	15	
		幼稚園教員養成課程	21	100	90	10	22	
		情報教育課程	20	64	61	3	22	
		計	125	434	412	22	135	
	A日程	中学校教員養成課程	44	173	167	6	54	
		計	44	173	167	6	54	
合 計			169	607	579	28	189	
経済学部	前期	昼コ 間I 主ス	経済学科	106	448	412	36	127
			経営学科	74	497	473	24	89
			経営法学科	69	575	539	36	83
		計	249	1,520	1,424	96	299	
理学部	前期	数 学 科	31	133	124	9	35	
		物 理 学 科	35	103	99	4	35	
		化 学 科	30	71	62	9	31	
		生 物 学 科	24	119	117	2	24	
		地 球 科 学 科	27	111	103	8	28	
		計	147	537	505	32	153	
工学部	前期	電子情報工学科	73	372	353	19	81	
		機械システム工学科	59	327	306	21	67	
		物質工学科	50	205	195	10	56	
		化学生物工学科	52	338	297	41	58	
		計	234	1,242	1,151	91	262	
総 計			932	4,548	4,261	287	1,048	

(注) 平成4年度の募集人員は、先に実施された人文学部、教育学部中学校・情報教育、経済学部「昼間主コース」、理学部数学科及び工学部の推薦入学(119人)並びに人文学部及び理学部生物学科の社会人特別選抜(4人)の入学予定者を除く。

## 平成4年度富山大学後期・B日程入学試験合格者数

(平成4. 3. 20)

学部	区分	学 科 (課程)	募集人員	志願者数	受験者数	欠席者数	合格者数	
人文学部	後期	人文学科	25 <sup>^</sup>	183 <sup>^</sup>	183 <sup>^</sup>	— <sup>^</sup>	65 <sup>^</sup>	
		語学文学科	30	207	207	—	80	
		計	55	390	390	—	145	
教育学部	後期	小学校教員養成課程	30	231	113	118	48	
		養護学校教員養成課程	6	47	27	20	9	
		幼稚園教員養成課程	9	109	58	51	12	
		情報教育課程	10	54	54	—	23	
		計	55	441	252	189	92	
経済学部	後期	昼コ 間1 主ス	経済学科	44	411	411	—	66
			経営学科	33	366	366	—	50
			経営法学科	28	277	277	—	42
		計	105	1,054	1,054	—	158	
	B 日 程	夜コ 間1 主ス	経済学科	3	57	57	—	9
			経営学科	6	55	55	—	18
			経営法学科	11	77	77	—	33
		計	20	189	189	—	60	
	合 計			125	1,243	1,243	—	218
	理学部	後期	数 学 科	11	37	37	—	15
物 理 学 科			12	39	39	—	15	
化 学 科			13	54	32	22	17	
生 物 学 科			20	55	55	—	27	
地 球 科 学 科			5	16	16	—	7	
計			61	201	179	22	81	
工学部	後期	電子情報工学科	40	149	149	—	64	
		機械システム工学科	30	115	115	—	36	
		物質工学科	25	75	75	—	31	
		化学生物工学科	26	155	155	—	37	
		計	121	494	494	—	168	
総 計			417	2,769	2,558	211	704	

(注) 平成4年度の募集人員については、先に実施された経済学部B日程「夜間主コース」推薦入学(23名)及び社会人特別選抜(17名)の入学予定者を除く。



## 平成4年度富山大学私費外国人留学生合格者数

(平成4. 3. 20)

学 部	学 科 (課程)	志 願 者 数	受 験 者 数	欠 席 者 数	合 格 者 数
人文学部	人 文 学 科	2	2	0	2
	語 学 文 学 科	2	2	0	0
	計	4	4	0	2
教育学部	小学校教員養成課程				
	中学校教員養成課程				
	養護学校教員養成課程	1	0	1	0
	幼稚園教員養成課程				
	情報教育課程				
	計	1	0	1	0
経済学部 昼間主 コース	経 済 学 科	23	14	9	3
	経 営 学 科	48	28	20	12
	経 営 法 学 科	1	1	0	1
	計	72	43	29	16
理学部	数 学 科				
	物 理 学 科				
	化 学 科				
	生 物 学 科				
	地 球 科 学 科				
	計				
工学部	電子情報工学科	13	5	8	2
	機械システム工学科	13	11	2	7
	物質工学科	2	2	0	1
	化学生物工学科				
	計	28	18	10	10
合 計		105	65	40	28

○ ○ ○ 退職者を囲む懇談会で永年の労がねぎらわれる ○ ○ ○

— 教官5名 事務系8名 —

平成3年度に定年（停年）又は勲奨により退職された方々を囲む懇談会が、去る3月19日（休）午前11時50分から事務局会議室において開催されました。

懇談会では、小黒学長から退職者一人一人に記念品が贈呈された後、永年にわたって本学に尽くされたことへの労をねぎらう挨拶がありました。これに対して、退職者を代表して、教育学部吉岡周明教授が謝意を述べられました。次いで、記念撮影の後、懇親パーティーに移りました。

懇談会は、終始和やかな雰囲気のうちに行われ、学長をはじめ各部局長から永年の労がねぎらわれました。

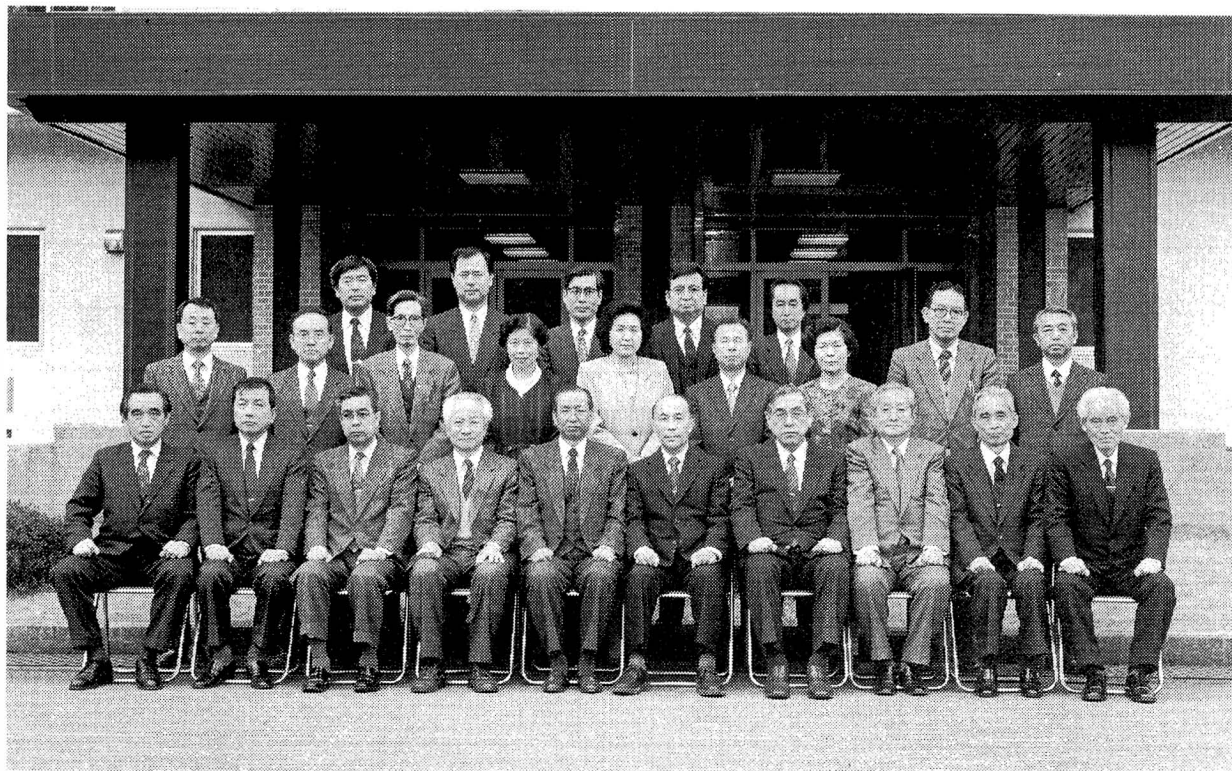
なお、退職された方々は次のとおりです。

事務局	文部事務官	奥井信夫
保健管理センター	文部技官	城川智都子
教育学部	文部教官	吉岡周明
〃	〃	広瀬禧七郎
〃	文部事務官	浦田隆志
〃	〃	高松正雄

（平成3年7月16日退職）

経済学部	文部教官	和久利昌男
理学部	〃	赤羽賢司
工学部	文部事務官	西尾武
教養部	文部教官	神垣知夫
〃	文部事務官	渡辺登美枝
附属図書館	〃	斉藤隆
〃	〃	結城敏

以上13名



▲ 平成3年度退職者を囲んで記念撮影（平成4年3月19日）

## — 本学地域共同研究センター事業支援のため —

## 「富山大学地域共同研究センター交流振興会」が設立される

去る3月16日(月)本学地域共同研究センターの事業を支援することを目的とする「富山大学地域共同研究センター交流振興会」の設立発起人会が開催されました。設立発起人会には、企業(18社)の代表者及び富山技術開発財団常務理事が出席されました。また、本学からは、龍山地域共同研究センター長、多々工学部長、時澤評議員及び宮下評議員他関係者が出席いたしました。

設立発起人会において同会の発会が満場一致をもって承認され、次のとおり役員が選出されました。

同振興会は、産学官の交流進展に有益な提言を行うこと並びに地域共同研究センター事業の促進、産学官の技術交流の促進、工学研究の充実及び学術的国際交流の促進に対する助成を目的として設立されたもので、企業法人、産業団体及び富山技術開発財団等で構成されています。

地域共同研究センターは、毎年開催している「経営者・研究者交流会」及び隔年開催の「テクノフォーラム」等を通し、産業界の意見を可能な限り取り入れ事業を展開してきましたが、同会の発足により、今後は産業界・地域社会からの提言を直接的に受け、産学官の交流促進のため一層充実した事業を展開し、産学官連携の要として地域社会の振興に寄与できるものと期待されています。

富山大学地域共同研究センター  
交流振興会役員企業名簿

会 長	北陸電気工業株式会社代表取締役会長 野村 精二
理 事	株式会社インテック
〃	コーセル株式会社
〃	三協アルミニウム工業株式会社
〃	新日軽株式会社北陸製造所
〃	株式会社スギノマシン
〃	大平洋製鋼株式会社富山製造所
〃	株式会社タカギセイコー
〃	武内プレス工業株式会社
〃	立山科学工業株式会社
〃	日産化学工業株式会社富山工場
〃	日本医薬品工業株式会社
〃	富士薬品工業株式会社
〃	株式会社北陸銀行
〃	北陸電力株式会社
〃	株式会社リッチェル
監 事	株式会社不二越 財団法人富山技術開発財団 常務理事



▲ 富山大学地域共同研究センター交流振興会の  
設立発起人会

— 理学部OBと理学部教官が —

**大学院理学研究科博士課程設置構想について懇談**

富山大学大学院理学研究科博士課程設置構想懇談会が、去る3月17日(火)本学黒田講堂で開催されました。

理学部では、学内委員会を設置し、博士課程設置について検討を重ね、高度な専門知識・能力を持つ職業人の養成と、再教育のための働きながら学べる大学院を構想しています。

この懇談会には、県内企業や研究機関で活躍している理学部（文理学部理学科）卒業生20人と、教官19人が出席しました。

始めに、松本理学部長が「社会的要請に応える大学院を作りたい。そのためにも今日、何が求められているのか、等について率直な意見を伺いたい。」とあいさつした後、文理学部卒業生で吉田工業常務取締役北

野芳則氏が「理学部に望むこと」と題して講演されました。その中で同氏は、米国経験を踏まえ「研究者が認められる町づくりをすることが大切。大学も努力することが必要です。」と指摘がありました。

引き続き、基礎科学系博士課程の必要性や構想等について話し合わせ、卒業生から「博士課程があると地元企業の人材確保に役立つ。」、「地域産業からは地元大学に対する期待は大きい。」、「大学側も企業のことをもっと考えてほしい。」などの意見が活発に出されました。

最後に、博士課程設置に向けて今後とも協力していきたいので、大学側も努力してほしい旨要望があり、懇談会は盛会裏に終了しました。



▲ 黒田講堂会議室で開催された懇談会

# 人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
辞 職	4. 3. 12	大 杉 登	文部事務官（教養部）	辞職を承認する
	4. 3. 21	黒 澤 浩 子	事務補佐員（附属図書館）	〃
	4. 3. 22	東 三 千 代	〃 （工学部）	〃
	4. 3. 31	城 川 智 都 子	保健管理センター看護婦	〃
昇 任	4. 3. 16	林 清 治	庶務部庶務課専門職員（研究協力担当）	庶務部庶務課課長補佐
転 任	4. 3. 31	野 田 好 人	文部事務官（教育学部）	文部事務官（生涯学習局生涯学習振興課）
退 職	4. 3. 31	奥 井 信 夫	施設課課長補佐	国家公務員法第38条の2第1項の規定により平成4年3月31日限り定年退職
	〃	西 尾 武	工学部事務長補佐	〃
	〃	浦 田 隆 志	教育学部附属学校第二係長	〃
	〃	渡 邊 登 美 枝	教養部教務係教務主任	〃
	〃	斎 藤 隆	附属図書館図書館専門員	〃
	〃	結 城 敏	文部事務官（附属図書館）	〃
採 用	4. 4. 1	金 森 美 枝 子		文部事務官（人文学部・理学部）
	〃	岩 城 稔		〃 （ 〃 ）
	〃	寺 島 裕 一		〃 （教育学部）
	〃	垣 見 篤		〃 （経済学部）
	〃	本 澤 誉 子		〃 （工学部）
	〃	川 崎 綾 子		〃 （附属図書館）
	〃	五十嵐 仁 子		事務補佐員（経理部主計課）
	〃	高 瀬 久 美 子		〃 （施設課）
	〃	榎 明 美		事務補佐員（人文学部・理学部）
	〃	三 浦 みより		〃 （教育学部）
	〃	林 美 賀 子		〃 （工学部）
	〃	藤 野 敏 子		〃 （教養部）
	〃	竹 山 美 幸		〃 （ 〃 ）
	〃	櫻 田 圭 子		教務補佐員（教養部）
〃	竹 澤 真 弓		事務補佐員（附属図書館）	
昇 任	4. 4. 1	今 田 收	北海道大学庶務部長	事務局長
	〃	小 幡 忠 夫	庶務部長	国立若狭湾少年自然の家所長
	〃	佐 竹 良 夫	東北大学庶務部庶務課長	庶務部長
	〃	若 泉 拓 美	学生課長	香川医科大学教務部長
	〃	岡 田 東 彦	庶務部庶務課課長補佐	群馬工業高等専門学校会計課長
	〃	林 清 治	〃	苫小牧工業高等専門学校学生課長
	〃	森 井 正	経理部主計課総務係長	経理部経理課課長補佐
	〃	村 岸 萬 喜 男	三重大学施設部建築課第一工営係長	施設課課長補佐
〃	松 下 義 春	経理部経理課用度係長	学生課課長補佐	

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
昇 任	4. 4. 1	太 田 則 春	経理部経理課情報処理係情報処理主任	経理部経理課情報処理係長
	"	中 島 廣 志	富山医科薬科大学業務部施設課工営係工営主任	施設課工営係長
	"	宮 原 進	庶務部人事課任用係任用主任	国立立山少年自然の家庶務課庶務係長
	"	羽 広 孝 司	経理部主計課司計係予算主任	高岡短期大学会計課司計係長
	"	湯 浅 健 一	入試課入学試験係入学試験主任	富山医科薬科大学教務部学生課入学試験係長
	"	矢 後 和 子	人文学部・理学部庶務係人事主任	富山商船高等専門学校庶務課人事係長
	"	柴 田 利 治	人文学部・理学部学務係教務主任	富山工業高等専門学校学生課寮務係長
	"	川 原 卯 吉	教育学部庶務係庶務主任	富山工業高等専門学校庶務課人事係長
	"	柴 田 淳	文部事務官（学生課）	学生課総務係総務主任
	"	田 中 輝 和	"（教育学部）	教育学部附属学校第二係庶務主任
	"	永 田 義 則	"（経済学部）	経済学部教務係教務主任
	"	稲 垣 克 己	"（教養部）	工学部庶務係研究協力主任
	"	高 森 満	"（工学部）	工学部経理係経理主任
"	下 田 誠 一	"（教養部）	教養部会計係会計主任	
転 任	4. 4. 1	杉 本 周 平	富山工業高等専門学校庶務課人事係長	庶務部人事課職員係長
	"	柳 田 邦 雄	高岡短期大学学生課教務係長	学生課留学生係長
	"	大 崎 秀 雄	富山商船高等専門学校庶務課人事係長	厚生課奨学係長
	"	安 西 修 三	富山医科薬科大学教務部学生課入学試験係長	入試課教務係長
	"	東 仙 博	高岡短期大学会計課司計係長	人文学部・理学部用度係長
	"	山 田 正 芳	富山商船高等専門学校学生課図書係長	附属図書館閲覧係長
	"	高 島 正 信	施設課工営係長	富山医科薬科大学業務部施設課工営係長
	"	林 茂 美	富山工業高等専門学校学生課教務係教務主任	厚生課保健係保健主任
	"	生 田 孝 行	文部事務官（国立立山少年自然の家庶務課庶務係）	文部事務官（庶務部庶務課）
	"	藏 川 一 正	"（富山工業高等専門学校庶務課）	"（庶務部人事課）
	"	真 田 敏 江	"（高岡短期大学会計課）	"（教育学部）
	"	新 井 健 二	"（富山医科薬科大学業務部医課電算係）	"（経済学部）
	"	横 井 宏 正	"（金沢大学文学部・法学部・経済学部）	"（教養部）
	"	森 田 智	"（高岡短期大学学生課）	"（ " ）
	"	松 井 純 子	文部技官（富山医科薬科大学附属病院看護部看護婦）	文部技官（保健管理センター看護婦）
	"	土 田 敏 雄	"（経理部主計課）	"（富山工業高等専門学校学生課）
	"	西 村 孝 司	文部事務官（経理部経理課）	文部事務官（国立立山少年自然の家庶務課会計係）
	"	山 田 洋 一	"（人文学部・理学部）	"（大臣官房調査統計企画課）
	"	津 島 浩 司	"（ " ）	"（高岡短期大学学生課）
	"	尾 崎 美 幸	"（工学部）	"（高岡短期大学会計課）
"	澤 崎 勝 彦	"（附属図書館）	"（富山工業高等専門学校庶務課）	
"	小 陳 左和子	"（ " ）	"（学術情報センター事業部データベース課数値画像データベース係）	
配 置 換	4. 4. 1	勝 山 進	事務局長	金沢大学事務局長
	"	湯 澤 芳 雄	庶務部庶務課長	高エネルギー物理学研究所管理部庶務課長
	"	渡 邊 昭	函館工業高等専門学校庶務課長	庶務部庶務課長
	"	小 川 泰	経理部経理課長	小樽商科大学会計課長
	"	板 谷 力 夫	富山商船高等専門学校庶務課長	経理部経理課長
	"	道 菅 浩	岡山大学入試課長	学生課長

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
配置換	4. 4. 1	中 林 邦 夫	上越教育大学教務部入学主幹	厚生課長
	〃	中 川 巖	学生課課長補佐	庶務部庶務課課長補佐
	〃	刈 賀 春 樹	経理部経理課課長補佐	工学部事務長補佐
	〃	能 登 功	庶務部庶務課庶務係長	庶務部庶務課専門職員（研究協力担当）
	〃	林 征 紀	経理部経理課情報処理係長	経理部主計課専門職員（契約担当）
	〃	秋 元 國 男	附属図書館整理係長	附属図書館図書館専門員
	〃	雁 田 彰	庶務部人事課任用係長	庶務部庶務課庶務係長
	〃	斉 藤 純 一	庶務部人事課職員係長	庶務部人事課任用係長
	〃	松 田 幹 夫	経理部主計課監査係長	経理部主計課総務係長
	〃	北 川 功	人文学部・理学部用度係長	経理部主計課監査係長
	〃	今 井 稔	学生課総務係長	経理部経理課用度係長
	〃	保 正 邦 久	学生課教務係長	学生課総務係長
	〃	御 福 隆	工学部学務係長	厚生課厚生寮務係長
	〃	東 敏	工学部用度係長	人文学部・理学部経理係長
	〃	竹 下 義 美	厚生課厚生寮務係長	教育学部学務係長
	〃	佐 伯 光 雄	経済学部学生係長	教育学部附属学校第二係長
	〃	野 尻 津喜夫	厚生課奨学係長	経済学部学生係長
	〃	横 山 正 弘	人文学部・理学部経理係長	工学部用度係長
	〃	高 邑 欣 市	教育学部学務係長	工学部学務係長
	〃	田 中 大四郎	附属図書館閲覧係長	附属図書館受入係長
	〃	滋 野 康 雄	附属図書館受入係長	附属図書館参考係長
	〃	石 川 裕 史	教養部学生係学生主任	経理部経理課情報処理係情報処理主任
	〃	川 上 重 信	工学部学務係学生主任	人文学部・理学部学務係教務主任
	〃	朝 野 真	庶務部人事課給与係給与主任	教育学部庶務係庶務主任
	〃	佐 藤 淳	経済学部会計係用度主任	経済学部会計係会計主任
	〃	相 澤 伸 彰	経済学部教務係教務主任	教養部教務係教務主任
	〃	山 本 悦 子	厚生課保健係保健主任	附属図書館総務係総務主任
	〃	石 塚 久 博	文部事務官（入試課）	文部事務官（庶務部庶務課）
	〃	島 田 勝 弘	〃（教養部）	〃（庶務部人事課）
	〃	中三川 敏 之	〃（工学部）	〃（経理部経理課）
	〃	佐 藤 修	〃（教養部）	〃（入試課）
	〃	藤 城 大 志	〃（経済学部）	〃（ 〃 ）
	〃	坂 東 康 子	〃（工学部）	〃（人文学部・理学部）
	〃	松 田 信 和	〃（経理部主計課）	〃（ 〃 ）
〃	草 島 伸 雄	〃（庶務部庶務課）	〃（経済学部）	
〃	新 井 浩	〃（人文学部・理学部）	〃（ 〃 ）	
〃	中 波 憲 子	〃（教育学部）	〃（工学部）	
〃	新 木 裕 一	〃（経済学部）	〃（ 〃 ）	
〃	沼 田 高 志	〃（教育学部）	〃（ 〃 ）	
〃	高 木 晃	〃（経済学部）	〃（ 〃 ）	
〃	竹 田 充 輝	〃（工学部）	〃（教養部）	
〃	須 田 雅 彦	〃（庶務部庶務課）	〃（ 〃 ）	

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
降 任	4. 4. 1	五十嵐 義 浩	学位授与機構管理部総務課庶務係長	文部事務官（経理部主計課）
併 任	4. 4. 1	秋 元 國 男	附属図書館図書館専門員	附属図書館整理係長
退 職	4. 4. 1	中 井 歌 子	臨時用務員（学生課作業員）	平成4年3月31日限り退職した
	”	松 永 善 吉	” （人文学部・理学部作業員）	”
	”	森 山 真 弓	事務補佐員（工学部）	”
	”	金 森 美枝子	” （ ” ）	”
	”	山 口 典 子	” （教養部）	”
	”	金 澤 智 子	教務補佐員（教養部）	”
公の名称の附加	4. 4. 1	廣 瀬 義 弘	学生部次長	厚生課長事務取扱を免ずる
辞 職	4. 3. 31	榊 木 謙 周	助教授（人文学部）	辞職を承認する
	”	檀 上 寛	” （ ” ）	”
	”	池 田 公 司	講師（経済学部）	”
	”	鋤 田 邦 夫	教授（教養部）	”
	”	水 上 義 行	教諭 （教育学部附属小学校）	”
	”	杉 本 豊 一	” （ ” ” ）	”
	”	杉 村 修	教頭(副校長)( ” 附属中学校)	”
	”	米 田 淳 一	教諭 （ ” ” ）	”
	”	平 崎 和 則	” （ ” ” ）	”
	”	堀 田 清 子	” （ ” 附属養護学校）	”
	”	能 登 佳 子	” （ ” ” ）	”
	”	谷 口 雅 美	” （ ” ” ）	”
	”	常 川 允 子	” （ ” 附属幼稚園）	”
	採 用	4. 4. 1	本 郷 真 紹	
”		谷 井 俊 仁		講 師（ ” ）
”		石 原 務		教 授（教育学部）
”		市 瀬 和 義		助教授（ ” ）
”		徳 橋 曜		講 師（ ” ）
”		細 野 忍		助教授（理学部）
”		鈴 木 信 雄		助 手（ ” ）
”		長 崎 宏 之		” （ ” ）
”		河 崎 善司郎		教 授（工学部）
”		中 茂 樹		助 手（ ” ）
”		瀧 田 啓 司		” （ ” ）
”		小 坂 暁 夫		” （ ” ）
”		小 野 慎		” （ ” ）
”		前 田 寧		” （ ” ）
”		坂 井 由紀子		文部技官（工学部）
”		田 畑 章		教 諭 （教育学部附属小学校）
”		中 川 慎 一		” （ ” ” ）
”		松 井 保		教 頭（副校長）（ ” 附属中学校）
”		田 中 英 雄		教 諭 （ ” ” ）
”		高 瀬 一 寿		教 諭 （ ” ” ）



異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
採 用	4. 4. 1	中 野 浩 美		教 諭 (教育学部附属養護学校)
	"	原 幸 子		" ( " " )
	"	古 田 雅 香		" ( " " )
	"	宮 森 真 寿 美		" ( " 附属幼稚園)
昇 任	4. 4. 1	前 川 要	講 師 (人文学部)	助 教 授 (人文学部)
	"	中 村 雅 之	" ( " )	" ( " )
	"	浅 沼 照 雄	助 教 授 (教育学部)	教 授 (教育学部)
	"	山 西 潤 一	" ( " )	" ( " )
	"	垣 田 直 樹	講 師 (経済学部)	助 教 授 (経済学部)
	"	鈴 木 基 史	" ( " )	" ( " )
	"	中 村 博 之	" ( " )	" ( " )
	"	常 川 省 三	助 教 授 (理学部)	教 授 (理学部)
	"	藤 田 安 啓	講 師 ( " )	助 教 授 ( " )
	"	吉 川 和 男	助 教 授 (工学部)	教 授 (工学部)
	"	加 藤 勉	" ( " )	" ( " )
	"	北 野 博 巳	" ( " )	" ( " )
	"	作 井 正 昭	講 師 ( " )	助 教 授 ( " )
	"	伊 藤 研 策	助 手 (京都大学工学部)	" ( " )
	"	二 神 透	" (工学部)	講 師 ( " )
	"	吉 田 正 道	" ( " )	" ( " )
	"	岡 村 信 孝	助 教 授 (教養部)	教 授 (教養部)
	"	西 村 克 彦	助 手 (理学部)	助 教 授 ( " )
	"	松 井 暁	" (一橋大学経済学部)	講 師 ( " )
	"	上 野 隆 三	講 師 (教養部)	助 教 授 ( " )
転 任	4. 4. 1	谷 本 雅 之	助 教 授 (経済学部)	" (東北大学経済学部)
	"	相 澤 吉 晴	" ( " )	" (広島大学法学部)
	"	石 岡 努	助 手 (東京農工大学工学部物質生物工学科)	助 手 (理学部)
	"	松 郷 誠 一	助 教 授 (神戸商船大学商船学部)	助 教 授 (工学部)
配 置 換	4. 4. 1	重 見 一 行	教 授 (教育学部)	教 授 (高知大学教育学部)
退 職	4. 4. 1	廣 瀬 禎 七 郎	" ( " )	平成4年3月31日限り停年により退職した
	"	吉 岡 周 明	" ( " )	"
	"	和 久 利 昌 男	" (経済学部)	"
	"	赤 羽 賢 司	" (理学部)	"
	"	神 垣 知 夫	" (教養部)	"
	"	上 村 美 恵 子	教 諭 (教育学部附属養護学校)	平成4年3月31日限り任期満了により退職した
併 任	4. 4. 1	大 谷 重 彦	教 授 (教養部)	教養部長・評議員 (～5. 3. 31)
	"	宗 孝 文	" (教育学部)	教育学部附属小学校長 (～6. 3. 31)
	"	加 瀬 正 二 郎	" ( " )	" 附属中学校長 (～6. 3. 31)
	"	新 井 文 男	" ( " )	" 附属養護学校長 (～6. 3. 31)
	"	岸 井 勇 雄	" ( " )	" 附属幼稚園長 (～6. 3. 31)
	"	佐 々 木 光 三	" (教育学部附属教育指導院センター)	" 附属教育指導院センター長 (～5. 3. 31)
	"	鱒 澤 晃 三	" (経済学部)	保健管理センター所長 (～6. 3. 31)

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
併 任	4. 4. 1	佐々木 浩	教 授 (教育学部)	評議員 (～5. 5. 31)
	”	加 瀬 正二郎	” ( ” )	評議員の併任を解除する
育児休業	4. 4. 1	中 西 真由美	教 諭 (教育学部附属養護学校)	職務に復帰した

学

事

## 平成3年度富山大学大学院研究科修了者一覧

## 〔人文科学研究科（修士課程）〕

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
日本・東洋文化専攻 (9名)	平成2年度	濱 岡 裕 美	古代日本語形容詞の史的変遷について －所謂ケン型形容詞を中心に－
		趙 青	源氏物語の思想に対する再論の試み －「宿世」と運命思想、運命思想と源氏物語－
		應 廣 建	白樺派文学と周作人
		太 田 茂 徳	明治の情景－近代金沢の都市空間－
		任 建 宏	大正デモクラシーと中国人留学生 －李大釗の思想形成と日本－
	平成元年度	伊 藤 克 江	室町期における守護畠山氏の領国支配
		住 田 純 一	資本主義の歴史地理と地域の生産 －現代日本における都市建造環境の空間編成－
		北 村 浩 幸	次元形容詞から見た構造意味論とプロトタイプ意味論
	昭和61年度	關 澤 結 城	コミュニケーション障害児の発話行動について －自閉症児にみられる話題転換に着目して－
西洋文化専攻 (4名)	平成2年度	山 田 智 恵	Analysis of English Adverbs as Subjuncts 「英語副詞研究」
		上 野 由紀子	坂口安吾文学の初期
		長 崎 真奈美	『山の音』研究 －老人の生と死－
	平成元年度	田 中 毅	ヒュームにおけるmoral sense

## 〔理学研究科（修士課程）〕

専攻	入学年度	氏名	論文題目
数学専攻 (1名)	平成2年度	保坂しのぶ	Some inequalities for BMO-martingales.
物理学専攻 (8名)	平成2年度	青木功介	メチルアルコール分子のCO伸縮振動励起状態におけるマイクロ波分光
		小谷部和徳	セリウムを含む重い電子系の磁場中比熱の研究
		酒井 覚	ダイオードレーザー・マイクロ波二重共鳴分光
		高田篤志	QCDにおけるU(1)問題
		長崎宏之	レーザーシュタルク分光による分子の励起状態の研究
		森 広志	赤外半導体レーザーを用いた分子分光
		森下康司	電子顕微鏡法による準結晶の研究
		森本恭一	レーザーを用いた高分解能赤外分光
化学専攻 (9名)	平成2年度	九澤和英	有機イオンの会合に関する研究
		國田昭子	イオン対の抽出挙動に関する研究
		眞田邦雄	ベンゾフロ[3, 2-c]イソキノリン類の合成研究
		小路宣昭	クロメン誘導体の合成研究
		鈴木陽司	ZSM-5型触媒による低級パラフィンのオリゴメリゼーション
		丹後孝昭	メタバナジン酸塩の振動スペクトル
		濱野茂之	ピロリン酸ジバナジルによる選択的酸化反応
		林 秀治	X <sub>2</sub> O (X: HorT) 氷の振動スペクトルと構造
		松田典子	二酸化炭素のメタンによる還元触媒反応
生物学専攻 (3名)	平成2年度	石須秀知	バラ科キイチゴ属の花の形態と系統分類
		澤田毅稔	ゾウリムシの繊毛運動におけるエネルギー供給機構

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
生 物 学 専 攻	平成2年度	田 中 大 祐	ウニ胚の骨片形成に及ぼす割腔内物質の作用
地 球 学 専 攻 (7名)	平成2年度	今 里 亜 紀 彦	美濃帯北縁部・丹生川地域の地質
		大 嶋 主 悦	日本列島近辺におけるサイレント/スローアースクエイク 検出
		小 林 剛	中部日本北部における電磁気観測
		渋谷 敏	哺乳類の骨の酸素同位体比と環境変動
		寺 谷 拓 治	斜面積雪の移動圧に関する研究
		三 谷 与	極地氷床浅層コアの物理解析
		米 口 敬 浩	大気微量成分の循環に関する同位体的研究

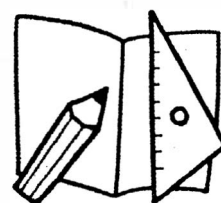
## 〔工学研究科(修士課程)〕

電 気 工 学 専 攻 (13名)	平成2年度	岩 見 裕 一	単細胞生物の電界効果
		久 保 哲	視覚障害者のための音声一点字変換装置に関する研究
		小 池 雅 人	結合4本線路形変成器の特性解析
		越 野 修 一	2本の同軸線路を使用した線路形変成器の解析
		斉 藤 勝	言語訓練支援システムの開発に関する研究
		澤 田 慎 一	交流電圧による懸垂碍子の閃絡破壊に関する基礎研究
		津 田 明 彦	音波CTの有限要素シミュレーション
		戸 嶋 真 也	コオロギの発音時における中胸神経節の入出力特性に関する研究
		中 村 文 孝	オープンコア形電磁リニア・アクチュエータの等価回路と 推力特性に関する研究
		森 田 誠	圧電セラミックスの分極過程シミュレーション及び振動解 析
		エ・エン・エム ザヒド ウッディン マハムド	On the Frequency Characteristics of a 3-D Cavity by Finite Element Method
シティ メイニンシ	A Study of Time Period and Characteristic of Forearm Electromyography in the Writing Activity of Alphabet Characters		

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
電気工学専攻	平成2年度	任 春 力	視覚誘発衝動性眼球運動の特性に関する研究
工業化学専攻 (15名)	平成2年度	安 藤 重 裕	石炭アルキル化物のガス化
		井 関 恒 久	N-アルキル及びN-ニトロスルフィリミンの合成とその反応性
		小 川 範 雅	水平電極型無隔膜Zn-Br <sub>2</sub> 二次電池
		金 木 達 朗	Purification and Characterization of Tissue Inhibitor of Metalloproteinases family from Various biological materials.
		耒 田 丈 太郎	七員環を含む新しい共役系化合物の合成研究
		京 極 康 弘	SPE電解法によるオゾン製造
		權 田 清 志	亜鉛-アルキルハライド系に於ける石炭の可溶化機構の研究 -RZnX系化合物の生成と石炭可溶性との関係-
		島 倉 將 和	二重異性化重合による新規両親媒性高分子の合成とその応用
		高 嶋 一 英	二相系電解酸化によるアルケンのエポキシ化
		高 田 英 一	S, S-ジフェニル-S-フルオロチアザインとアミン類の反応 -N-モノ置換スルホンジイミン, S-アミノチアザインの合成-
		竹 内 球	S-フルオロチアザインの生成とアルカリ加水分解反応に関する立体化学的及び動力学的検討
		西 博	石炭の化学構造 -LC並びにGPC分別物の構造特性-
		平 田 文 彦	Thermal Behavior and Mass Spectrometry Studies of 2-Oxazolidinone Derivatives
		矢 崎 順 一	アズレノ〔2, 1-b〕-3, 8-メタノ〔10〕アヌレンの合成と性質に関する研究
		矢 元 正 俊	Synthesis and Polymerization of Conjugated Diacetylenes.
金属工学専攻 (11名)	平成2年度	青 木 勝	$\beta'$ 銅-亜鉛合金の相分解過程
		磯 村 克 明	高分解能電子顕微鏡による格子像のコンピューターシミュレーション
		板 倉 浩 二	難処理性製錬原料からの貴金属成分の湿式回収に関する基礎的研究
		佐 藤 正 孝	Ti-6Al-4V合金に形成される $\alpha/\beta$ 界面相
		三 賀 朋 尚	砒酸イオンによる酸性塩化物水溶液からの金の還元析出に関する電気化学的研究

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
金属工学専攻 (11名)	平成2年度	高澤裕真	53Fe-15Cr-26Ni合金における $\gamma'$ 相及び $\eta$ 相の析出と成長
		瀧田朋広	Ti-Ni合金の相変態と形状記憶能に及ぼすNi含有量の影響
		成田宏治	加工熱処理したAl-Mg <sub>2</sub> Si基合金の時効析出挙動
		野村弘明	Al基合金の腐食特性に及ぼすGaの影響
		牧野武彦	Ti-15V-3Cr-3Sn-3Al合金の時効による $\alpha$ 相の析出
		張小岷	53Ni-15Cr-20Co合金における $\gamma'$ 相の析出と成長
機械工学専攻 (5名)	平成2年度	中林秀明	非定常局部加熱される有孔無限板の円孔縁き裂の応力拡大係数に関する研究
		濱田俊克	伝熱促進体を含む水の融解過程に関する研究
		前野満	散水による屋根雪融雪に関する実験的研究
		矢口達也	溶湯鍛造アルミニウム合金の空中及び腐食疲労き裂伝ば挙動に及ぼす微視組織の影響に関する研究
		張克儉	平板と異なるすきまを持つ直列2円柱からの渦放出に関する研究
生産機械工学専攻 (5名)	平成2年度	安藤弘紀	SUS304の鋸刃切断における被削性評価に関する研究
		加藤智仙	チタン合金及びニッケル基合金における研削性評価に関する研究
		神谷和秀	ゾーンプレート干渉縞の解析方法に関する研究
		松本博明	高強度アルミニウム-セラミックス粒子複合材料の高速超塑性加工に関する研究
		三津目忠男	金属材料の機械加工における水溶性切削油剤の影響に関する研究
化学工学専攻 (8名)	平成2年度	石神利道	回転振動円板による微細粒子群の連続形状分離
		加藤和彦	水で練った粘土層の物性値と電気浸透的脱水
		黒川寛幸	同体摩擦法によるぜい性碎料の温度上昇及びメカノケミカル変化
		五箇洋子	相変化を伴う凝固過程における移動現象
		坂田圭祐	固定化オキシダーゼを用いたグルコン酸の生産に関する研究

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
化学工学専攻 (8名)	平成2年度	左 波 一 彦	均一懸濁状態の固-液系攪拌槽の攪拌動力に関する研究
		畑 利 幸	有限要素法による乱流促進体間の流動解析
		林 田 健 志	造粒と粉碎と分粒との同時操作による微細造粒粒子設計
電子工学専攻 (12名)	平成2年度	浅 野 一 夫	電源回路故障診断エキスパートシステムの作成
		尾 山 実	液晶配向用ラングミュア-プロジェクト膜の作製とその特性
		金 山 昌 仙	オブジェクト指向を取り入れた論理型言語の作成
		川 島 茂 信	Si基板上へのInSb薄膜の成長
		櫻 井 鉄 史	反強誘電性液晶セルにおける分子配列とその電気光学的特性
		新 谷 哲 也	MBE成長 $(\text{Si}_{1-x}\text{Ge}_x)_{10}/\text{Si}(001)$ 超格子界面の成長温度依存性
		鈴 木 浩 司	高温超伝導薄膜のMBE法による作製とその特性
		瀧 田 啓 司	オブジェクト指向と状態遷移モデルに基づくシーケンス制御用言語の作成
		中 茂 樹	有機EL薄膜素子の電氣的・光学的特性
		鍋 澤 浩 文	Bi系酸化物超伝導薄膜のMBE成長
		二 宮 徳 博	強誘電性カイラルスメクチック液晶セルの層構造制御
南 朋 之	ニューラルネットワークによるカラー画像のベクトル量子化に関する研究		



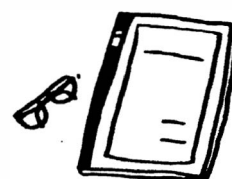
## 平成4年3月学部卒業生数

学部・学科(課程)		入学年度						合 計
		2	63	62	61	60	59	
人文学部	人 文 学 科		71	12			1	84
	語 学 文 学 科		84	2				86
	計		155	14			1	170
教育学部	小学校教員養成課程		113	2	1			116
	中学校教員養成課程		59	5				64
	養護学校教員養成課程		18					18
	幼稚園教員養成課程		24		1			25
	情報教育課程		35					35
	計		249	7	2			258
経済学部	昼 間 コ ー ス	経 済 学 科		107	15	3		125
		経 営 学 科		107	4			111
		経 営 法 学 科		87	4	1	1	93
		計		301	23	4	1	329
	夜 間 コ ー ス	経 済 学 科		16	2	1		19
		経 営 学 科		17	3			20
		経 営 法 学 科		12	1			13
		計		45	6	1		52
	計		346	29	5	1		381
	理学部	数 学 科		25	6	1	1	
物 理 学 科			25	7	6		1	39
化 学 科			35	5	1			41
生 物 学 科			27	8	2		1	38
地 球 科 学 科			24	2	1		1	28
計			136	28	11	1	3	179
工学部	電 気 工 学 科		45	4	2			51
	工 業 化 学 科	1	31	9	1		1	43
	金 属 工 学 科		31	10		1		42
	機 械 工 学 科		36	9	3			48
	生 産 機 械 工 学 科		39	11	3	1		54
	化 学 工 学 科		30	10	2			42
	電 子 工 学 科		27	6	1		1	35
	計	1	239	59	12	2	2	315
合 計	1	1,125	137	30	4	6	1,303	



## 平成4年3月大学院修了者数

研究科 専攻		入学年度			合 計
		2	元	6 1	
人文科学研究科	日本・東洋文化専攻	5	3	1	9
	西洋文化専攻	3	1		4
	計	8	4	1	13
理学研究科	数 学 専 攻	1			1
	物 理 学 専 攻	8			8
	化 学 専 攻	9			9
	生 物 学 専 攻	3			3
	地 球 科 学 専 攻	7			7
	計	28			28
工学研究科	電 気 工 学 専 攻	13			13
	工 業 化 学 専 攻	15			15
	金 属 工 学 専 攻	11			11
	機 械 工 学 専 攻	5			5
	生 産 機 械 工 学 専 攻	5			5
	化 学 工 学 専 攻	8			8
	電 子 工 学 専 攻	12			12
	計	69			69
合 計		105	4	1	110



## 平成4年度

## 富山大学国際交流事業基金による各種事業の採択

平成4年度本学国際交流事業のうち第1種海外派遣事業(A), 第1種海外派遣事業(B), 第2種招へい事業(B)に次の8件が採択されました。

## ○ 第1種海外派遣事業(A)(遼寧大学)

部 局	氏 名	職 名	派 遣 期 間	研 究 課 題
教育学部	野村 昇	教 授	4. 8.24~4. 9.23(31日間)	異性体の分離に関する研究

## ○ 第1種海外派遣事業(B)

部 局	氏 名	職 名	派 遣 期 間	訪 問 先	研 究 課 題
教育学部	塚野 州一	教 授	4. 7.18~4. 7.24(7日間)	ブリュッセル・インターナショナル・コンファレンス・センター(第25回国際心理学ブリュッセル会議)(ベルギー)	自己意識の生涯発達
経済学部	飯田 剛史	教 授	4. 9.27~4.10.10(14日間)	UCLA 他(アメリカ合衆国) トロント大学 他(カナダ)	北米における多民族状況についての比較社会学的研究 - 韓国人移民のコミュニティ形成を事例として -
理学部	岡部 俊夫	助教授	4. 8.14~4. 8.22(9日間)	シュラトンハーバーアイランドホテル(第10回国際結晶成長学会)(アメリカ合衆国)	金属薄膜上のアモルファス・ゲルマニウムの結晶化
工学部	佐々木基文	助 手	4. 6.29~4. 7. 4(6日間)	グルノーブル自動研究所 他(フランス)	放物型分布定数系の現実的有限次元VS-MRAC
教養部	小林久寿雄	教 授	4.12. 5~4.12.19(15日間)	インド科学研究所(インド)	非線形発展方程式の解の漸次挙動について

## ○ 第2種招へい事業(B)

受入れ教官			招へい期間	招へい研究者		研 究 課 題
部 局	氏 名	職 名		氏 名	所 属 ・ 職 名	
人文学部	平田 純	教 授	4. 6.14~4. 6.17(4日間)	Daniel Fallon	テキサス農工大学・文学部長 (アメリカ合衆国)	日本(特に富山大学)とアメリカにおける高等教育について
教養部	中越 矩方	教 授	4. 5.24~4. 5.26(3日間)	Erich Lamprecht	Universität des Saarlandes Full Professor (ドイツ)	代数関数体の構造と、非可換環上のガウス和

なお、富山大学国際交流事業後援会は、昭和63年9月30日に解散しましたが、その後も引き続き、国際交流事業基金への寄附を受け付けていますので、御寄附くださる方は、お申し出ください。(担当: 庶務課庶務係)

## 平成4年度

## 国際交流事業基金による第3種事業の募集

平成4年3月19日開催の平成3年度第4回国際交流委員会において、標記募集要項が次のとおり決定されましたので、応募されるようお知らせします。

## 平成4年度富山大学国際交流事業基金第3種外国留学への奨学事業募集要項

1. 趣 旨  
富山大学（以下「本学」という。）における教育の国際交流推進の一環として、外国への留学を希望する本学の学生に対し、奨学のための学資金を給与することを目的とする。
2. 応募資格  
(1) 富山大学に在籍する学生（研究生、聴講生等を除く。）で、平成4年度中に私費で外国への留学を決定（予定も含む。）している者とする。  
(2) 学業成績が優秀であること。
3. 支給学資金額  
学資金として10万円を限度として支給する。
4. 支給方法  
学資金は、原則として渡航時に一括支給する。
5. 募集人員  
若干名
6. 申請手続  
学資金を希望する者は、次に掲げる書類を所属部局長に提出する。  
(1) 申請書（様式11-1～2）〈略〉  
(2) 受入れ大学等からの受入れを承諾する文書  
(3) 前年度の学業成績証明書
7. 提出期限  
外国の大学等へ留学しようとする3ヶ月前までとする。
8. 選 考  
選考は、富山大学国際交流委員会が行い、その結果は所属部局長に通知する。
9. 報告書の提出  
奨学生は、帰国後速やかに派遣留学生に関する報告書（様式12）〈略〉を学長に提出するものとする。

## 平成4年度富山大学国際交流事業基金第3種外国人留学生への奨学事業募集要項

1. 趣 旨  
富山大学（以下「本学」という。）における教育の国際交流推進の一環として、外国人留学生に対し、奨学のために学資金を給付することを目的とする。
2. 応募資格  
本学に在籍する外国人留学生で、次に掲げる要件を備えた者とする。  
(1) 経済的な理由により、学資の支弁困難であること。  
(2) 学業成績が優秀であること。
3. 支給学資金額  
学資金として月額1万円を支給する。
4. 支給方法  
(1) 学資金の支給日は、毎月20日とし、当日が日曜日等により支給できない場合は、翌日以降の支給できる日とする。  
(2) 支給期間内において、支給日前に本学を離れ帰国の途に着く等により本学に戻らない場合は、当該月及び翌月以降は支給しない。
5. 支給期間  
平成4年4月1日から平成5年3月31日までの1年間とする。ただし、勉学状況等で学資金を支給するにふさわしくないと判断されたときは、奨学期間中であっても、学資金の支給を停止することがある。
6. 募集人員  
17名以内とする。
7. 申請手続  
学資金を希望する者は、申請書（様式13-1～2）〈略〉を所属部局長を通じ学長に提出する。
8. 提出期限  
平成4年5月9日(出)までとする。
9. 選 考  
選考は、富山大学国際交流委員会が行い、その結果は所属部局長に通知する。

## 寄稿 海外レポート

## 環境保全とCanadian Life

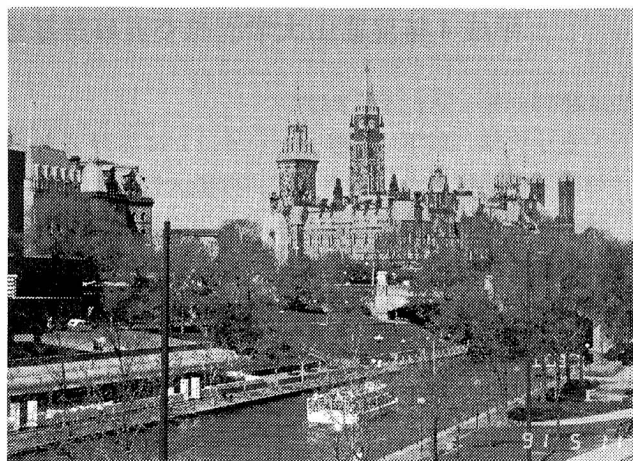
理学部助手 笠原 一世

平成2年度文部省在外研究員（若手教官）として、カナダ連邦の首都オタワにあるカナダ国立科学研究所（NRC, National Research Council of Canada）へ外国出張する機会を与えられた。その派遣生活の寄稿文を書くように要請されて、この文を書くことになったが、オタワとNRCについては、既に「富山大学学报」の289号に理学部の田口 茂先生の寄稿文が掲載され、よくその雰囲気が伝えられているので、重複する部分は省きたいと考えている。そこで、私が経験したことをもとに、カナダの環境保全に対する生活の様子について、感じたことを記述させていただきたい。

富山大学が環境保全のために、法律的にも、まず行う義務があるのは、学内から排出される実験廃棄物の処分である。そのための施設の一つとして、廃液処理施設があり、その役割は当大学からの汚染を広めないことである。私は理学部の所属になっているが、この富山大学廃液処理施設の管理・運転もすることを条件に採用された（らしい）。決して、実験廃液の処理が好きなのではないが、採用時に国家公務員法第97条による宣誓書「私は、国民全体の奉仕者として公共の利益のために勤務すべき責務を深く自覚し、日本国憲法を遵守し、並びに法令及び上司の職務上の命令に従い、不偏不党かつ公平に職務の遂行に当たることをかたく誓います。」に署名した以上、やらねばならない。実験廃液の処理の合間に自分の研究をしなければならないのが、私の現状である。そんな生活も既に9年目になる。

廃液処理施設の位置付けは、富山大学を一軒の家と考えると、ちょうどトイレのようなものかもしれない。決して好んで行きたいところではないが、無ければ大変に困る。頭を時々休めるのは結構だが、排泄（実験廃液の排出）ができなくなると命（実験研究）にかかわる。当大学の理工系の研究室から毎年いったい何報の論文が出ているか知らないが、その研究に私達の仕事が多量の貢献をしていると私は自負している。しかし、無論、こんなことが研究実績になるわけでもない。廃液処理施設で取り扱う廃液は決してきれいとは言え

ないが、稼働を始めて既に6年経過した現在の廃液処理施設の建物や装置の類は、年数の割にはきちんと管理しているつもりである。特に、処理した廃液類が、規制値をクリアしているかどうかを分析する機器類のある部屋は、当大学でも最もきれいな状況にあると思う。（疑う方は見学に来て下さい。）自然が大切だ、環境保全だと騒ぐけれども、また最近の論文などの緒言でも環境問題の重要性が述べられているのに、この裏方の施設の存在はいつも軽視されてきたように思う。（せめて大学概要に写真ぐらい載せてほしい。なかなか感じのよい建物なのだが。）このような扱ひも、日本人のゴミ・廃棄物に対する意識の典型的な例かもしれない。そんな現場から、カナダ国立科学研究所で、研究に専念できることになった。英語には不安があったが、天にも昇る気持ちであった。ありがたいことである。また、カナダは環境保護にも熱心な国と聞いているので、その現状にも興味があった。そこで、カナダでの生活で感じた環境に対する意識を日本の状況と比較してみたいと思う。



▲ オタワ名物のカナダ連邦議会議事堂とリドー運河。運河に浮かぶ観光船が見える。

カナダ政府も近年は財政難らしく、1991年は設立から75周年を迎えたNRCの記念すべき年であったが、NRC全体の規模縮小と組織の統廃合が終わりつつあるところで、何か少し落ちつかない時期であったよう

だ。

私の出張の目的は、水中の微量成分の分析に関する研究である。環境保全を考える上でも、環境水中の微量の金属を正確に分析することは、最も基本的なことであり、非常に大切である。この派遣先は、世界でこの研究所だけが水の標準試料（中に含まれる目的成分の含有量が明らかになっている試料）を調製し世界に頒布していることで有名である。では、海水中の鉄や亜鉛の濃度はいったいどれ程か御存じであろうか。その濃度は、 $\mu\text{g}/\text{l}$ （1リットル中に $10^{-9}$ グラム、10億分の1）よりも更に低い。海水1リットルには約35gもの塩類（ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、塩化物イオンなど）が含まれており、これらの影響を受けずに、超微量の金属を分析するのは容易なことではない。現在の非常に高感度な分析器機をしても直接定量することは不可能である。そこで、目的の成分だけを濃縮し、更に妨害する成分から分離するという操作が不可欠である。この操作を前濃縮という。また、分析を行う環境から金属がまぎれこんでくる汚染に対しても細心の注意を払わなければならない。このために、非常に塵やほこりの少ないクリーンルームという清浄な部屋が必要になり、ほとんどの操作をこの中で行うことになる。さらに、極めて純度の高い水や試薬、きれいな容器等が必要になってくる。また前濃縮用の物質は、目的成分を集める機能が十分であるとともに、純粋でなければならない。私に与えられた課題は、そのような機能を持ち、かつクリーンな物質を開発せよというものであった。結論からいえば、ある種の日本製の材料をもとに工夫することによって、ほぼ問題を解決することができた。はからずも、日本製品の優秀性を立証するかたちになったのであるが。

現地での生活では、春のチューリップフェスティバル、凧上げ祭り、夏の連邦議事堂の前での衛兵の交代式、ジャズフェスティバル、秋の紅葉と熱気球大会、冬のスケート・スキー等は楽しい思い出である。研究所のスタッフとのバーベキュー、カーリングゲーム等も楽しむことができた。それ以上に、オタワでは、良い友人達に恵まれたのは幸運であった。特に研究室の同僚で、同じ年のスコットや、自分の兄や姉のように思えるビクターとフローレンス・ボイコ夫妻には、まったく身内同様につき合ってもらったことができたので、本当のカナディアンライフを経験することができたように思う。「Do it yourself.」の観念の普及してい

るこの国では、かなり大きな改修工事まで自分の手で行うことが多く、そのためのシステムもできている。夏の間、休日にはこの夫婦の家の庭の改修工事を手伝ったところ、そのお礼に湖畔の貸し別荘での数日の休暇に招待してくれた。自家用車にカヌーを積み、食料品や生活用具を載せたトレーラーを引っ張りながら、郊外へ2時間も走るときれいな湖の湖畔に着く。そこで、大自然のなか、昼は釣りやカヌー漕ぎ、森の散策を楽しみ、ゆったりと食事を満喫し、夜は静かな会話やスターウッチングで過ごす。カナダ人の全てがこのような生活を楽しめるわけではないが、ごく一般の家族がそのようにして、恵まれた自然の中で週末や休暇を過ごして、生気を養い、また仕事に戻っていく。



▲ オタワ郊外の湖Canonto Lakeでの休暇。美しい日没時に魚釣りを楽しむ風景。

確かに今の日本の経済力は、カナダをはるかに上回っているが、このような生活の余裕があるだろうか。人生を楽しむということでは、彼らの方がより人間的な生き方をしているのかもしれない。そう感じた。この湖畔での休暇の間に次のようなことがあった。

食事の後片付けは男の仕事である。さて、洗剤をつけて食器を洗おうと威勢よく洗剤をスポンジにとったところ、スコットからたしなめられた。彼が言うには、この食器を洗った水は湖に入るから、なるべく洗剤を使わず、しかも少量の水で洗えと言う。そういえば、それぞれの別荘の近くの湖面には、必ず取水口であることを示す目印の浮きがあった。また、この湖にも、カナダの国鳥であるルーン（Loon）の姿も見られた。こうした自然をなるべく保全しよう、そして自然を楽しむがためには、これを汚さないようにしなければならないという意識は、非常に高いように感じた。また、

その美しい大自然に誇りを持っている。

研究所でも、使用済みの紙はリサイクルするために専用のトレイがどの机の脇にも備えられていた。参考のために、環境保全のシンボル（日本とカナダのエコマーク）及びリサイクルのマークを示しておく。



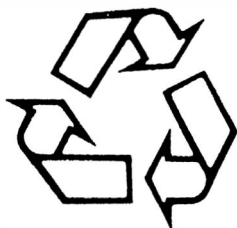
エコマーク

(日本)



(カナダ)

RECYCLABLE



RECYCLABLE

リサイクルマーク

(カナダ)

カナダでは、再生紙の使用がむしろ一般的であり、生卵用のカートンはもちろん、トイレットペーパー、プリンター用紙、クリスマスカード、カレンダーにも再生紙使用のものが多くみられ、その価格もやや割安になっていた。また、スーパーで買物をしたときのポリ袋にも、それにリサイクルしたプラスチックが含まれていることの表示があった。その普及がどれほど徹底しているかは別として、缶や瓶のリサイクルも推奨されていた。これらは、統一規格の青い箱に入れて集められるのだが、その収集日には、住宅地の道路沿いにずらっと、この箱が並ぶ様は印象的であった。カナダでは、法律的な規制があるため缶飲料の容器も、ほとんどがタブ（口金）が本体から離れないものであり、リサイクルが推奨されていた。

帰国して、成田空港で買った飲料水の缶は、相変わ

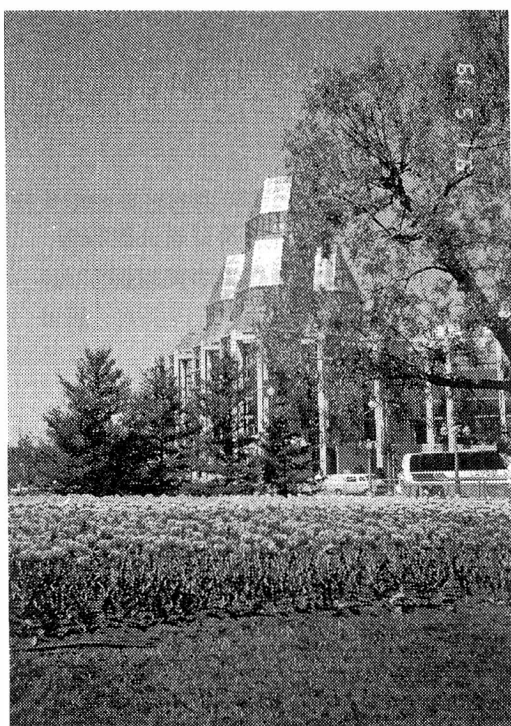
らず、タブが本体から離れるものであったのにはがっかりした。日本も、これから次第に切り替わっていくのであろうが、ようやく缶にリサイクルのマークだけは記載されるようになった。

また、研究室に戻った時期は、ちょうど学生達が、ワープロで卒業論文の仕上げに忙しい時期であった。ほとんどの学生が、自分用のパソコンやワープロを持ち（これもぜいたくなことだが）、自費購入とはいえ高品質の紙をふんだんに使い捨てしていた。学生に紙の浪費ではないかと尋ねたら、「カナダあたりから、安い紙が入ってくるそうだし、再生紙だって良質紙よりも安いわけではありませんからね。」という返事がかえってきた。我が大学全体で使用する紙の量も膨大なものであろうが、リサイクルの話を聞いたこともない。

何よりもまず経済効率が優先し、そのために厳しい競争が強られる日本社会。その結果、何か大切なものを見失っているような気がする。バブル経済の崩壊に伴って、景気後退が進めば、また真っ先に切り落とされるのは、廃棄物処理のような非採算部門、すなわち環境保全に関係するところではなかろうかと危惧している。

大学の実験廃液についても、ただ単に、外注業者に引き渡せば、経費が安く上がると算盤をはじく傾向が当大学を含め、全国的にあると聞いている。しかし、大学は研究機関であるとともに教育機関である。廃棄物の処理の大原則は、出した人が自分で処理するという原点処理である。厳密にこれを徹底すれば、無節操な人も減るに違いない。現在、富山大学では、文部省からの費用だけで、何とか廃液処理施設を運営している。少ない研究費（内部費用）を、廃棄物の処理になんか使いたくないというのは、本音であろう。そんなことは共通経費でまかなってほしいという考え方は、利潤の追求のために「企業の自由」を大儀にして、利益の増加につながる活動には熱心であるが、製品の最終的な処理や汚染防止に要する費用はできるだけ社会あるいは第三者に負担させる（外部費用化）という企業の論理に似ている。利潤・利益というところを「研究業績」に、また企業を「学問・研究」に置き換えてみればよい。この「企業の論理」がそのまま「社会の論理」となり、我々も知らず知らずに、そのような風潮に染まってしまっているのではないだろうか。

そして、地球全体の環境のことを考えたときには、



▲ 春のチューリップとナショナルギャラリー（国立美術館）のモダンな建物。オタワは、人口30万人の首都機能中心の都市であるが、多くの美術館、博物館が揃っている。毎週木曜日は、国立の美術館、博物館は無料開放されていた。

やはり、これからはリサイクルであろう。高度成長が始まり、使い捨てが当たり前になる前の1960年代には、日本でもしっかりとリサイクルのシステムができていたとき。その気になって日本社会が取り組めば、経済的にも見合うリサイクルのシステムを構築することはできると思うのだが。

多くの学生は、大学卒業後は社会で産業活動に当たる。その学生に、その原則を教えるのが、単に論文の発表数で業績を競うよりも、大学人にとって本当は大切なことではないのだろうか。国家百年の計というか、遠い将来を見据えて教育・研究を進めなければならないはずの大学までもが、効率優先になっているところに、今の「経済大国」といわれる日本の不幸があるように思えた。

最後に、この原稿を書き終えるに当たり、私の出張中にいろいろと御迷惑をおかけした廃液処理施設運営委員長の野村 昇先生、廃液処理施設長の後藤克己先生をはじめその他の関係者の方々に感謝いたします。富山へ帰って最初に廃液処理施設で再会したとき、技

能補佐員である高城さんのほっとされた表情が忘れられない。きっと実際の廃液の処理をして留守を守っていただいた高城さんには、ずいぶん御苦勞をおかけしたのであろう。心からお礼申し上げたい。

（ 筆者は、平成2年度文部省在外研究員（若手教官）として、平成3年3月29日から平成4年1月28日までの間、「イオン会合に基づく分離・前濃縮法による環境水中の微量成分の分析に関する研究」のため、カナダ国立科学研究所等へ外国出張されました。）



# 関 係 法 令

## (政令)

- 教育公務員特例法施行令の一部を改正する政令の一部を改正する政令(36) 3. 21
- 毒物及び劇物指定令の一部を改正する政令(38) 3. 21
- 育児休業等に関する法律第14条の政令で定める政令(49) 3. 27
- 義務教育諸学校等の女子教育職員及び医療施設、社会福祉施設等の看護婦、保母等の育児休業に関する法律施行令を廃止する政令(51) 3. 27
- 国家公務員等共済組合法施行令の一部を改正する政令(59) 3. 27
- 平成2年度及び平成3年度における国家公務員等共済組合法の年金の額の改定に関する政令の一部を改正する政令(61) 3. 27
- 日本育英会法施行令の一部を改正する政令(70) 3. 27

## (府令)

- 人事記録の記載事項等に関する総理府令の一部を改正する総理府令(総理3) 3. 21
- 科学技術研究調査規則の一部を改正する総理府令(総理6) 3. 21

## (省令)

- 毒物及び劇物取締法施行規則の一部を改正する省令(厚生9) 3. 21
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令(文部4) 3. 23
- 大学入学資格検定規程の一部を改正する省令(同5) 3. 25
- 文部省設置法施行規則等の一部を改正する省令(同6) 3. 30
- 国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令(同7) 3. 31

## (規則)

- 人事院規則16-4(補償及び福祉施設の実施)の一部を改正する人事院規則(人事院16-4-9) 3. 27

## (告示)

- 短期大学の名称を変更する件(文部20) 3. 3
- 短期大学の位置を変更する件(同21) 3. 3
- 短期大学の位置を変更する件(同23) 3. 6
- 平成5年度科学研究費補助金の研究課題を公募する件(同28) 3. 18
- 平成4年度大学入学資格検定の施行期日等を告示する件(同31) 3. 25
- 在外教育施設を認定した件(同32) 3. 26







## 第12回大学教育改善検討委員会（3月3日）

（議 題）

- (1) 教育課程の編成について
- (2) 組織・制度の改革について
- (3) その他

## 第9回大学院委員会（3月13日）

（審議事項）

- (1) 平成4年3月富山大学大学院人文科学研究科（修士課程）、理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）修了者の認定について
- (2) 富山大学大学院理学研究科規則の一部改正について
- (3) 富山大学大学院工学研究科規則の一部改正について
- (4) その他

## 第13回評議会（3月13日）

（審議事項）

- (1) 平成4年3月卒業生の認定について
- (2) 学生の除籍について
- (3) 富山大学学則の一部改正について
- (4) 富山大学大学院理学研究科規則の一部改正について
- (5) 富山大学大学院工学研究科規則の一部改正について
- (6) 富山大学組換えDNA実験安全管理規則の一部改正について
- (7) その他

## 第6回事務協議会（3月13日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について

## 第3回情報処理センター運営委員会（3月13日）

（審議事項）

- (1) 平成5年度歳出概算要求について
- (2) その他

## 第5回放射性同位元素総合実験室運営委員会（3月17日）

（議 題）

- (1) 放射性同位元素総合実験室長の推薦について
- (2) 放射線取扱主任者及び代理者の推薦について

(3) 放射線防護費について

(4) その他

## 第2回低温液化室運営委員会（3月18日）

（議 題）

- (1) 平成5年度歳出概算要求について
- (2) その他

## 第4回国際交流委員会（3月19日）

（審議事項）

- (1) 平成3年度富山大学国際交流事業基金決算について
- (2) 平成4年度富山大学国際交流事業基金予算案について
- (3) 平成4年度富山大学国際交流事業基金第3種事業募集要項（案）について
- (4) 平成4年度富山大学国際交流事業基金各種事業（第1種及び第2種事業）の採択について
- (5) その他

## 第5回水素同位体機能研究センター運営委員会（3月23日）

（審議事項）

- (1) 平成5年度歳出概算要求について
- (2) 平成5年度国立学校施設整備概算要求について
- (3) その他

## 第13回大学教育改善検討委員会（3月24日）

（議 題）

- (1) 教育課程の編成について
- (2) 組織・制度の改革について
- (3) 答申案について

## 第14回（臨時）評議会（3月26日）

- (1) 大学教育改善検討委員会からの答申の対応等について
- (2) その他

## 第1回事務組織等検討委員会（3月27日）

（議 題）

- (1) 大学教育改善に係る事務組織等の在り方について
- (2) その他

# 学 内 規 則

## 富山大学大学院理学研究科規則の一部改正

富山大学大学院理学研究科規則の改正理由

教育内容の充実を図るため、化学専攻の授業科目を整理し、所要事項を改める。

富山大学大学院理学研究科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成4年3月13日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学大学院理学研究科

規則の一部を改正する規則

富山大学大学院理学研究科規則（昭和53年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

別表化学専攻の項中

「 | 量子化学 | 4 | 」を 「 | 量子化学 | 4 |  
| 固体化学 | 2 | 」 に、

「 | 無機反応論 | 4 | 」を 「 | 無機反応論 | 4 |  
| 核化学 | 2 | 」 に  
改める。

附 則

この規則は、平成4年4月1日から施行する。

## 富山大学大学院工学研究科規則の一部改正

富山大学大学院工学研究科規則の改正理由

各専攻共通の授業科目に情報処理に関する授業科目を新たに開設し、教育内容の充実を図るため所要事項を改める。

富山大学大学院工学研究科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成4年3月13日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学大学院工学研究科

規則の一部を改正する規則

富山大学大学院工学研究科規則（昭和42年5月19日制定）の一部を次のように改正する。

別表各専攻共通の項中

「 | 情報処理特論第二 | 2 | 」の次に  
「 | 情報処理特論第三 | 2 | 」を加える。

附 則

- 1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 平成3年度以前の入学生については、なお従前の例による。

## 富山大学組換えDNA安全管理規則の一部改正

### 富山大学組換えDNA実験管理規則の改正理由

「大学等における組換えDNA実験指針」（平成3年文部省告示第4号）の施行により、「大学等の研究機関等における組換えDNA実験指針」（昭和57年文部省告示第131号）の全部が改正されたことに伴い、所要の改正を行うとともに、規定の整備を図るため、所要事項を改める。

富山大学組換えDNA安全管理規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成4年3月13日

富山大学長 小黒千足

### 富山大学組換えDNA実験安全管理規則の一部を改正する規則

富山大学組換えDNA実験安全管理規則（昭和61年2月21日制定）の一部を次のように改正する。

第1条を次のように改める。

（目的）

第1条 この規則は、大学等における組換えDNA実験指針（平成3年文部省告示第4号。以下「指針」という。）に基づき、富山大学（以下「本学」という。）における組換えDNA実験（組換えDNA実験に準ずる実験を含む。以下「実験」という。）を計画し、実施する際に遵守すべき安全確保に関する必要な事項を定め、もって実験の安全かつ適切な実施を図ることを目的とする。

第2条に次の一項を加える。

3 この規則の解釈に関する用語の意義については、指針に定めるところによる。

第5条第1項第5号中「実験の安全管理に関する必要な事項」を「必要な事項」に改める。

第6条第1項第5号中「予防医学等に従事する者」を「医学系の専門家」に改める。

第9条中「3分の2以上」を「過半数」に改める。

第12条第2項中「、生物災害の発生を防止するための知識及び技術並びにこれらを含む関連の知識」を「、生物災害に関する知識」に改める。

第13条第1項第3号中「実験の安全確保に関する必要な事項を処理」を「必要な事項を実施」に改める。

第14条第2項中「技術並びにこれらを含む関連の知識及び技術」を「技術」に改める。

第15条第1号中「十分に遵守」を「遵守」に改め、同条第2号中「第27条に規定する教育訓練」を「実験の安全確保に必要な教育訓練」に改め、同条第3号中「実験計画を学長に提出し」を「大臣承認実験及び機関承認実験について、実験計画を学長に提出し」に改め、同条第5号中「実験の安全確保に関して必要な事項」を「必要な事項」に改め、同号を同条第6号とし、同条第4号を同条第5号とし、同条第3号の次に次の一号を加える。

(4) 機関届出実験について、実験計画を学長に届け出ること。実験計画を変更しようとする場合も同様とする。

第16条を次のように改める。

（実験従事者）

第16条 実験従事者は、実験の計画及び実施に当たって安全確保について十分に自覚し、必要な配慮をするとともに、あらかじめ、微生物に係る標準的な実験法並びに実験に特有な操作方法及び関連する技術に精通し、習熟していなければならない。

第18条の次に次の一条を加える。

（実験計画の届出）

第18条の2 機関届出実験を実施しようとする実験責任者は、別表に定めるところにより、所定の実験計画書等を所属部局長を経て、学長に届出なければならない。また、実験計画を変更しようとするときも同様とする。

2 学長は、前項の届出があったときは、その実験計画の内容を速やかに安全委員会に通知しなければならない。

第20条中「，病原微生物実験室」を「，微生物学実験」に、「標準実験法」を「標準的な実験法」に、「生物学的封じ込めの2種の封じ込めの方法」を「生物学的封じ込め」に改める。

第21条中「物理的封じ込めのレベル」を「物理的封じ込めのレベル（組換えDNA実験に準ずる実験の安全確保のための基準を含む。以下同じ。）」に改める。

第22条を次のように改める。

（実験室等の表示）

第22条 実験責任者は、実験室等、実験設備、培養装置等並びに組換え体を含む試料及び廃棄物並びに実験に使用した植物を保管する冷凍庫、冷蔵庫等に当該実験の物理的封じ込めのレベルに応じて指針に定める実験実施要項（組換えDNA実験に準ずる実験のための基準を含む。）に定めるところにより表示しなければならない。

第24条中「，別紙様式3」を「，別紙様式8」に改める。

第25条第1項中「用いられている」を「用いられる」に改め、同条第2項中「組換え体及び組換え体を含む材料」を「組換え体を含む試料及び廃棄物並びに実験に使用した植物」に改め、同条第3項から第5項までを削り、同条に次の六項を加える。

- 3 実験責任者は、組換え体等の記録を作成し、保存しなければならない。ただし、P2レベル以下の物理的封じ込めを必要とする組換え体等の記録は、実験記録をもって代えることができる。
- 4 前項の規定にかかわらず組換えDNA実験に準ずる実験を行う実験責任者は、当該実験に係る導入した異種のDNA分子、組換えDNA分子又は組換え体に関する記録を作成し、保存しなければならない。ただし、植物を実験室内の解放型栽培器を使用して栽培する実験を行う場合は、これに係る明細目録を作成し保存しなければならない。
- 5 組換え体等を実験室等の外に運搬する場合には、堅固で漏れのない容器に入れて実験室で密封してから搬出しなければならない。ただし、P3レベル以上の物理的封じ込めを必要とする組換え体等を実験室等の外に搬出する場合には、万一容器が破損しても内容物が漏出しないようにするとともに、容器又は包装物の表面の見やすいところに「取扱注意」の朱文字を明記しなければならない。

6 実験に使用した動物固体を実験区域の外へ運搬する場合には、十分な強度を有し、かつ、万一容器が破損しても逃亡しないように二重の容器に入れ、その表面の見やすいところに標識をつけなければならない。

7 P3レベル以上の物理的封じ込めを必要とする組換え体等を郵送する場合には、指針の定めるところにより行わなければならない。

8 実験責任者は、組換え体等を運搬又は郵送の都度、運搬する組換え体の名称、数量、運搬先（研究機関名及び責任者名）を記録し、保存しなければならない。ただし、P2レベル以下の物理的封じ込めを必要とする組換え体の記録は、実験記録をもって代えることができる。

第26条第1項中「別紙様式7」を「別紙様式11」に改め、同条第2項中「別紙様式8」を「別紙様式12」に改める。

第27条第1号中「取扱い」を「取扱」に改め、同条第5号中「知識」を「知識（大量培養実験においては、組換え体を含む培養液を漏出した場合における化学的処理による殺菌等の措置に特に配慮を払うこと。）」に改める。

第28条第1項に次のただし書を加える。

ただし、本健康診断は、本学における一般健康診断をもって代えることができる。

同条第2項中「取り扱う」を「取扱う」に改め、同条第4項中「感染のおそれがある場合」を「感染が疑われる場合」に改める。

第30条を第31条とし、第29条の次に次の一条を加える。

（動植物固体の他大学等への供与等）

第30条 実験責任者は、組換えDNA実験に準ずる実験に使用した動物固体若しくはその子孫又は植物（文部大臣が安定かつ安全な系統動植物として認定したものは除く。以下「動植物固体」という。）を他の大学等の研究者等に供与する場合（当該実験責任者が他の大学等での実験を継続するため動植物固体を移す場合を含む。）は、別表に定めるところにより、所定の計画書等を所属部局長を経て、学長に提出し、承認を受けなければならない。この場合において、学長は供与される研究者等の所属する大学等の長の承認手続を経て、承認を与えるか否かの決定を行うものとする。ただし、大臣承認実験により

作製した動植物固体を他の研究者から供与を受ける場合は、別途文部大臣の承認を得なければならない。

- 2 学長は、前項の決定を行ったときは、速やかに所属部局長を経由して、実験責任者に通知するものとする。

別表及び別紙様式を次のように改める。(別添のとおり)

附 則

この規則は、平成4年3月13日から施行する。

別 添

別 表

承認等対象事項	提出書類及び提出部数	提出期限
1. 実験指針に定める大臣承認実験及び機関承認実験	① 組換えDNA実験計画申請書(別紙様式1の1) 1部 ② 組換えDNA実験(組換え体作製・増殖実験)計画書(別紙様式2) 5部 ③ 組換えDNA実験に準ずる実験(動物固体を用いる実験)計画書(別紙様式3) 5部 ④ 組換えDNA実験に準ずる実験(植物を用いる実験)計画書(別紙様式4) 5部 ⑤ 未認定の宿主-ベクター系の使用計画書(別紙様式5) 5部 ⑥ 科学研究費補助金研究計画調書の写 5部 ⑦ 実験に用いる蛋白性毒素産性能を説明する資料 5部 ⑧ その他必要に応じて実験計画の内容を説明する資料 5部  (注) 1. 申請に当たっては、上記の①から⑧までの様式から必要に応じて選択し、提出すること。 2. 機関承認実験の場合の提出部数は、上記にかかわらず各1部とする。	科学研究費補助金に係る実験については、毎年11月5日まで。
2. 動植物固体又はその子孫の供与に関する場合の大臣承認の申請	① 動植物固体又はその子孫の供与等の計画申請書(別紙様式6) 1部 ② 動植物固体又はその子孫の供与等の計画書(別紙様式7) 5部	
3. 実験指針に定める機関届出実験	① 組換えDNA実験届出書(別紙様式1の2) 1部 ② 組換えDNA実験(組換え体作製・増殖実験)計画書(別紙様式2) 1部	

(注) 別紙様式1の1~12(省略)

## 富山大学文書決裁規則の一部改正

## 富山大学文書決裁規則の改正理由

国家公務員の育児休業等に関する法律（平成3年12月24日法律第109号）の施行等に伴う部分休業の承認について、専決者を定めるため、所要事項を改める。

富山大学文書決裁規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成4年4月1日

富山大学長 小 黒 千 足

## 富山大学文書決裁規則の一部を改正する規則

富山大学文書決裁規則（昭和48年12月21日制定）の一部を次のように改正する。

別表第2（各課共通事項）の項中第7号を第9号とし、第6号を第8号とし、同号の前に次の2号を加える。

6 職員（課長以上の職員を除く。）の部分休業の承認	学 長	主管部長 学生部次長 施設課長
7 課長以上（事務局長を除く。）の部分休業の承認	学 長	事務局長

同表（保健管理センター関係）の項中第5号から第9号までを1号ずつ繰り下げ、第4号の次に次の1号を加える。

5 部分休業の承認	学 長	保健管理センター所長
-----------	-----	------------

同表（学部、教養部、附属図書館関係）の項中第11号から第22号までを3号ずつ繰り下げ、第10号の次に次の3号を加える。

11 職員（附属学校教員、係長以下の職員及び事務系教室勤務職員を除く。）の部分休業の承認	学 長	学 部 長 教 養 部 長 附属図書館長
12 附属学校教員の部分休業の承認	学 長	附属学校長
13 係長以下の職員及び事務系教室勤務職員の部分休業の承認	学 長	事 務 長

同表（水素同位体機能研究センター関係）の項中第5号から第9号までを1号ずつ繰り下げ、第4号の次に次の1号を加える。

5 部分休業の承認	学 長	水素同位体 機能研究センター長
-----------	-----	--------------------

同表（地域共同研究センター関係）の項中第5号から第9号までを1号ずつ繰り下げ，第4号の次に次の1号を加える。

5 部分休業の承認	学 長	地域共同研 究センター 長
-----------	-----	---------------------

#### 附 則

この規則は，平成4年4月1日から施行する。

## レ ク リ エ ー シ ョ ン

### < 学 内 囲 碁 大 会 >

本学レクリエーション委員会娯楽部会囲碁班主催，  
文部省共済組合富山大学支部共催による平成3年度学  
内囲碁大会が，去る3月21日(土)に本学職員会館におい  
て行われました。

なお，成績は，次のとおりでした。

#### (Aクラス)

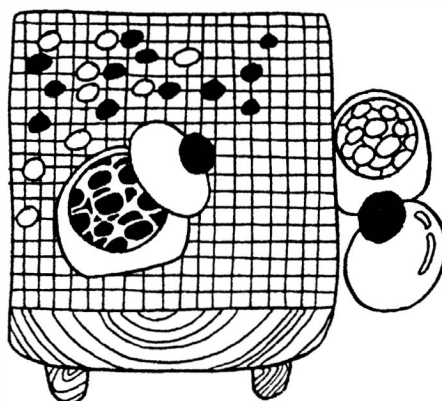
優 勝	廣 瀬 義 弘
次 勝	品 川 不 二 雄
3 位	村 山 年 男

#### (Bクラス)

優 勝	奥 田 真 一
次 勝	村 中 一 男
3 位	能 登 功

#### (Cクラス)

優 勝	角 井 與 志 雄
次 勝	朝 野 真
3 位	宮 尾 幸 一



# 海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	教授	小谷 仲男	アメリカ合衆国, 連 合王国, フランス, オーストリア	ガンダーラ美術資料の調査研究	4. 3. 1 } 4. 4. 30
	理学部	助手	川田 邦夫	ノルウェー	人工雪崩実験, データ解析, 各種 数値モデルの比較検討	4. 3. 3 } 4. 3. 29
	工学部	助教授	石原 外美	アメリカ合衆国	複合材料の疲労損傷と破壊に関する 研究	4. 3. 19 } 5. 1. 19
	教育学部	助教授	堀田 朋基	フィンランド	飛躍運動における下肢関節の役割 に関するバイオメカニクス的研究	4. 3. 26 } 5. 1. 26
	教育学部	助教授	山下 三郎	連合王国, フランス, ドイツ, オーストリア, イタリア	西欧諸国の動作学 (Bewegungs- lehre) の成果についての研究	4. 3. 27 } 4. 5. 26
	理学部	助教授	池田 栄雄	カナダ	特異摂動法の応用に関する研究	4. 4. 1 } 5. 2. 2
海外研修旅行	教養部	教授	小島 寛	アメリカ合衆国	北極域植生の分類に関する国際ワ ークショップに出席し研究発表す るとともに, カリフォルニア州南 西部における植生調査	4. 3. 4 } 4. 3. 16
	経済学部	助教授	浅井 尚子	ニュージーランド	事故補償法, 社会保障法に関する 調査・資料収集	4. 3. 20 } 4. 4. 1
	教養部	助教授	メアリー アン ムラジアン	香 港	専門的コミュニケーションのため の英語国際会議において研究発表	4. 3. 23 } 4. 3. 30
	人文学部	助教授	村井 文夫	イギリス, フランス	18世紀における静寂主義の文献調 査	4. 3. 23 } 4. 4. 10
	教育学部	助教授	吉田 雅巳	アメリカ合衆国	1992年度全米理科教育学会全国大 会出席及び研究資料収集	4. 3. 24 } 4. 4. 6
	経済学部	教授	武井 勲	アメリカ合衆国	第30回リスク・マネジメント及び 保険管理協会 (RIMS) 年次総会 出席及び研究資料収集	4. 3. 25 } 4. 4. 15
	理学部	教授	杉田 吉充	中華人民共和国	X線回折による結晶評価の研究に ついての討論及び情報交換	4. 3. 31 } 4. 4. 10
	工学部	助教授	伊藤 研策	アメリカ合衆国	アメリカ化学会主催のシンポジウ ム「Macromolecules and the New Microscopy」において招 待講演	4. 4. 5 } 4. 4. 12
	理学部	教授	渡邊 義之	イタリヤ	自然簡約等質リーマン空間の幾何 学的性質についてフィレンツェ大 学のトリチェリ教授との共同研究	4. 4. 12 } 4. 6. 18



職 員 消 息

《新任者住所》

事務局

事務局長 今 田 收

庶務部

庶務部長 佐 竹 良 夫

庶務部庶務課

庶務課長 渡 邊 昭

文部事務官 生 田 孝 行  
(文書係)

庶務部人事課

職員係長 杉 本 周 平

文部事務官 蔵 川 一 正  
(任用係)

経理部主計課

文部事務官 五十嵐 義 浩  
(司計係)

経理部経理課

経理課長 板 谷 力 夫

施設課

施設課課長補佐 村 岸 萬喜男

工営係長 中 島 廣 志

学生部学生課

学生課長 道 菅 浩

留学生係長 柳 田 邦 雄

学生部厚生課

厚生課長 中 林 邦 夫

奨学係長 大 崎 秀 雄

保健主任 林 茂 美

学生部入試課

教務係長 安 西 修 三

人文学部

助 教 授 本 郷 真 紹  
(日本史学)

講 師 谷 井 俊 仁  
(東洋史学)

教 諭 中 川 慎 一  
(数 学)

## 人文学部・理学部

用 度 係 長 東 仙 博

## 附属中学校

副 校 長 松 井 保

文 部 事 務 官 岩 城 稔  
(庶務係)

教 諭 田 中 英 雄  
(国 語)

文 部 事 務 官 金 森 美 枝 子  
(学務係)

教 諭 高 瀬 一 寿  
(社 会)

## 教育学部

教 授 石 原 努  
(障害児教育)

## 附属養護学校

教 諭 中 野 浩 美

助 教 授 市 瀬 和 義  
(物理学)

教 諭 原 幸 子

教 諭 古 田 雅 香

講 師 德 橋 曜  
(歴史学)

## 附属幼稚園

教 諭 宮 森 真 寿 美

文 部 事 務 官 真 田 敏 江  
(会計係)

## 経済学部

文 部 事 務 官 垣 見 篤  
(教務係)

文 部 事 務 官 寺 島 裕 一  
(会計係)

文 部 事 務 官 新 井 健 二  
(教務係)

## 理学部

助 教 授 細 野 忍  
(情報数理)

## 教育学部附属学校

## 附属小学校

教 諭 田 畑 章  
(社 会)

助 手 長 崎 宏 之  
(レーザー物理学)

助 手 石 岡 努  
(構造化学)

文部事務官 本 澤 誉 子  
(庶務係)

助 手 鈴 木 信 雄  
(形態学)

事務補佐員 林 美賀子  
(電気システム工学)

#### 工 学 部

教 授 河 崎 善 司 郎  
(知識情報工学)

#### 教 養 部

講 師 松 井 暁  
(経済学)

助 教 授 松 郷 誠 一  
(生物反応化学)

文部事務官 横 井 宏 正  
(庶務係)

助 教 授 伊 藤 研 策  
(生体分子化学)

文部事務官 森 田 智  
(学生係)

助 手 中 茂 樹  
(物性デバイス工学)

教務補佐員 櫻 田 圭 子  
(化学)

助 手 瀧 田 啓 司  
(知識情報工学)

#### 附 属 図 書 館

閱 覧 係 長 山 田 正 芳

助 手 小 坂 暁 夫  
(熱流体システム工学)

文部事務官 川 崎 綾 子  
(整理係)

助 手 小 野 慎  
(生物反応化学)

事務補佐員 竹 澤 真 弓  
(閲覧係)

助 手 前 田 寧  
(細胞工学)

#### 保 健 管 理 セ ン タ ー

看 護 婦 松 井 純 子

教 務 職 員 坂 井 由 紀 子  
(生物反応化学)

《住所変更》

庶務部人事課

職員主任 宮尾 幸一

事務長補佐 松下 甚清

文部事務官 武田 正夫

(教務係)

人文学部

講師 田村 俊介

(国文学)

《電話番号変更》

経済学部

助教授 山本 直孝

(企業関係法)

助教授 油谷 幸利

(朝鮮語・朝鮮文学)

教育学部

助教授 廣瀬 信

(教育史)

事務補佐員 池田 由紀子

(理科教室)

附属中学校

教諭 竹内 元人

(理科)

附属養護学校

教諭 七澤 邦彦

経済学部

教授 佐藤 良一

(理論経済学)

教養部

助教授 佐藤 清人

(英語)



# お知らせ

## 完全週休二日制の実施について

国家公務員の完全週休二日制実施のための法律が、平成4年4月2日に公布され、同年5月1日から実施されることになりました。

昭和63年5月27日に閣議決定された「世界とともに生きる日本—経済運営5か年計画」の中で、我が国全体の労働時間の短縮が打ち出され、年間労働時間の目標時数を1,800時間とされましたが、これは、完全週休二日制（週40時間勤務制）を実施し、年次休暇20日を100パーセント取得した場合の労働時間に相当するものです。

同方針に基づき、本学でも平成2年度に週40時間勤務制の試行を実施し、各部署の協力を得ながら、問題点等について検討を重ねてきたところです。

本制度の実施に当たっては閉庁を原則とし、特に教育・研究上支障を来す部門については、各機関の実情に応じて開庁とすることも可能となっており、本学では、教育学部附属学校が該当することとなります。

なお、附属学校については、平成4年9月1日から毎月の第2土曜日が閉庁となります。

## 育児休業等について

国家公務員の育児休業等に関する法律（平成3年12月24日法律第109号）の制定に伴い、平成4年4月1日から次のとおり施行されましたので、お知らせします。

### ◎ 育 児 休 業

項 目	内 容
対 象 者	<p>1歳に満たない子を養育している職員であれば、職種、男女を問わず、任命権者の承認を受けて、子が1歳に達する日（誕生日の前日）まで、育児休業できます。</p> <p>ただし、次のような場合は、育児休業できません。</p> <p>① 配偶者がいわゆる専業主婦（夫）である場合            ② 配偶者が就業していても育児のため休業している場合            ③ 非常勤職員、臨時的職員として採用されている場合            ④ 育児休業を請求する日から1年以内に離職する場合</p>
手 続 き	<p>育児休業を始めようとする日の1カ月前までに、育児休業承認請求書（子の出生を証明する書類を添付）を任命権者に提出してください。</p> <p>任命権者は、育児休業をする職員の業務を代わって処理するための措置を講ずることが著しく困難な場合を除き、育児休業を承認することとなっています。</p>
期 間 の 延 長	<p>育児休業の期間は、原則として1回、子が1歳に達する日まで延長できます。</p>
再度の育児休業	<p>また、次のような事情が生じた場合は、子が1歳に達する日まで、再度、育児休業できます。</p> <p>① 育児休業が次子の産休・出産により終了した後、次子が養子縁組等により職員と同居しないこととなった場合            ② 配偶者の病気等入院や配偶者との別居その他の育児休業の終了時に予測できなかった事実が生じたことにより、再度の育児休業をしなければ子の養育に著しい支障が生じる場合</p>

項 目	内 容
休業中の給与等	<p>官職は、育児休業の承認を受けたときに占めていた官職を保有します。</p> <p>給与（俸給及び諸手当）は、育児休業の期間は、支給されません。</p> <p>期末・勤勉手当についても基準日（3月1日、6月1日、12月1日）に育児休業中の場合は支給されません。</p> <p>月の中途から育児休業に入る場合は、その月は勤務した日数に応じて日割計算で給与が支給されます。</p> <p>なお、従前から育児休業制度が設けられ、育児休業の期間中、育児休業給の支給が行われていた義務教育諸学校の女子教員、看護婦、保母等については、引き続き育児休業給が支給されます。</p> <p>共済掛金は、育児休業中も、職員の身分を保有し組合員の資格が継続することから、支払う必要があります。その場合、職員が直接共済組合に支払うこととなりますが、その方法は共済組合担当者に確認してください。</p> <p>所得税は、月々の給与所得がなくなると課税されませんが、住民税については、前年の所得額に基づいて課税されますので支払う必要があります、市役所等から納入書・納付書が送付されてきますので、職員が納付することとなります。納付場所については、納付書・納付書に記載されています。</p> <p>公務員宿舍使用料については、納入告知書が送付されてきますので、職員が納付することとなります。</p> <p>共済組合からの貸付金についても、職員が共済組合に返済することとなりますが、その方法等については、共済組合担当者に確認してください。なお、育児休業中も組合員ですので普通貸付等を受けることができます。</p> <p>財形貯蓄については、育児休業中は、中断します。</p>
終 了	<p>次のような事由が生じた場合は、育児休業は終了します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 配偶者が就業をやめるなど子を世話できるようになった場合</li> <li>② 職員が子との別居、病気等入院などで子を世話できなくなったときや託児などして子の世話をしなくなった場合</li> <li>③ 職員が次子の産前休暇に入ったときや次子を出産した場合</li> <li>④ 育児休業に係る子が亡くなった場合</li> <li>⑤ 職員の子でなくなった場合</li> <li>⑥ 職員が退職又は停職の処分を受けた場合</li> </ol> <p>なお、配偶者が子の世話をできるようになったなど子の養育状況に変更が生じた場合には、養育状況変更届を提出することとなっています。</p> <p>育児休業の期間の満了前に、職務復帰しようとする場合には、所属長と協議のうえ育児休業の承認の取消を受けてください。</p>
職務復帰後	<p>職務は、育児休業中に保有している官職の職務に復帰します。</p> <p>昇給に関しては、育児休業期間の2分の1に相当する期間を引き続き勤務したものとみなされます。</p> <p>職務に復帰した直後の期末手当は、育児休業期間の2分の1に相当する期間が算定基礎とされ、勤勉手当については、育児休業の全期間が除算されます。</p> <p>退職手当の算定に当たっては、育児休業期間の2分の1が在職期間として扱われます。</p> <p>年次休暇は、育児休業をした場合も、1年に20日付与され、繰越しも10日を限度として認められます。</p> <p>職員は、育児休業及び部分休業を理由として、不利益な取扱いを受けないこととされています。</p>



# 主 要 行 事

## 本 部

- 3月3日 第12回大学教育改善検討教育委員会  
 5日 育児休業等制度説明会  
 (於：名古屋合同庁舎)  
 7日 平成4年度入学者選抜試験(A・前期日程)  
 合格者発表  
 10日 第3回国際交流委員会学術交流部会  
 部課長会議  
 第13回中部地区JSTアドバンスコース指  
 導者養成研修(Aコース)(於：名古屋合  
 同庁舎)  
 12～13日 入学手続(前期日程)  
 13日 第9回大学院委員会  
 第13回評議会  
 第6回事務協議会  
 第3回情報処理センター運営委員会  
 14日 平成4年度入学者選抜試験(後期日程)  
 17日 第5回放射性同位元素総合実験室運営委員  
 会  
 18日 第21回中部地区研修担当官会議  
 (於：名古屋合同庁舎)  
 第2回低温液化室運営委員会  
 19日 退職者を囲む懇談会  
 第4回国際交流委員会  
 20日 平成4年度入学者選抜試験(B・後期日程,  
 私費外国人留学生)合格者発表  
 21日 平成3年度学内囲碁大会  
 24日 第13回大学教育改善検討委員会  
 25日 平成3年度学位記授与式  
 (於：富山市公会堂)  
 会計係長会議  
 26日 第14回(臨時)評議会  
 26～27日 入学手続(A・B・後期日程, 私費外国人  
 留学生)  
 27日 第1回事務組織等検討委員会  
 30日 追加合格者入学手続開始

## 人 文 学 部

- 3月6日 教授会  
 教授会(人事)  
 9日 時間割担当者会議  
 学部教務委員会  
 11日 教授会  
 12日 学部将来計画委員会と予算委員会の合同会  
 議  
 19日 教授会  
 人文科学研究科委員会  
 24日 係長会議  
 学部補導委員会  
 25日 学部・大学院学位記授与式及び卒業祝賀会  
 (於：県民会館)

## 教 育 学 部

- 3月4～  
 9日 スキーⅡ実習(於：志賀高原スキー場)  
 6日 学部教務・補導合同委員会  
 教授会  
 10日 学部予算委員会  
 11日 学部教務委員会  
 学部教務・補導合同委員会  
 教授会  
 人事教授会  
 12日 附属養護学校卒業式  
 14日 附属幼稚園修了式  
 16日 附属小学校卒業式  
 17日 附属幼稚園修業式  
 18日 附属中学校卒業式  
 19日 学部教務・補導合同委員会  
 学部教務委員会  
 教授会  
 人事救援会  
 21日 附属小学校修業式  
 附属中学校修業式  
 附属養護学校修業式



## 経済学部

- 3月4日 平成4年度私費外国人留学生入学試験選考委員会  
人事教授会
- 5日 学部入学方法検討委員会  
学部留学生委員会
- 6日 学部教務委員会  
教授会  
日本海経済研究所運営委員会  
学部施設整備委員会
- 12日 学部教務委員会  
教授会  
学部将来構想検討委員会
- 16日 夜間主コース運営委員会
- 17日 学部等図書委員会  
各種委員会選考委員会
- 18日 学部入学方法検討委員会  
係長会議
- 19日 学部教務委員会  
教授会

## 理学部

- 3月6日 教授会
- 11日 教授会  
理学研究科委員会  
人事教授会
- 17日 大学院理学研究科博士課程設置構想懇談会  
(於：黒田講堂)
- 19日 教授会  
理学研究科委員会  
理学研究科専任教授委員会
- 24日 係長会議  
理学部案内編纂委員会
- 25日 学部・大学院学位記授与式  
(於：理学部第10講義室)

## 工学部

- 3月5日 学部合格者数検討委員会  
教授会
- 10日 拡大教務委員会  
教務委員会
- 11日 教授会  
工学研究科委員会  
専任委員会
- 12日 学部運営委員会
- 14日 後期日程入学者選抜試験
- 18日 合格者数検討委員会  
教授会  
工学研究科委員会

## 教養部

- 3月2日 予算委員会
- 3日 将来計画委員会
- 4日 補導委員会
- 10日 教務委員会  
教授会
- 11日 人事教授会
- 13～18日 スキー実習(於：志賀高原スキー場)
- 19日 補導委員会
- 31日 補導委員会

## 附属図書館

- 3月13日 係長連絡会
- 18日 係長連絡会
- 19日 国立婦人教育会館婦人教育情報センターオンライン情報検索サービスに関する懇談会  
(於：国立婦人教育会館)
- 係長連絡会
- 30日 係長連絡会

水素同位体機能研究センター

- 3月3日 R・I特別健康診断  
23日 第5回水素同位体機能研究センター運営委員会

地域共同研究センター

- 3月5日 岐阜大学関係者視察  
9日 徳島大学及び東京工業大学関係者視察  
16日 地域共同研究センター交流振興会発起人会  
17日 鹿児島大学関係者視察

編集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電話 (24) 1755代